

# ■ 建築設計学科

## 1年次

	科目名	開講期		オンライン 対象科目
		前期	後期	
必修科目	設計製図Ⅰ	○	○	
	建築製図Ⅰ	○	○	
	CAD設計製図Ⅰ		○	
	設計実習Ⅰ	○	○	
専門科目				
選択科目	構造力学基礎	○		○
	図学	○		
	福祉住環境概論	○		○
	意匠設計特論		○	
	構造設計特論		○	
	建築概論		○	
基幹科目	建築計画Ⅰ	○		○
	建築計画Ⅱ		○	○
	建築史Ⅰ	○		○
	建築史Ⅱ		○	○
	建築法規Ⅰ	○		○
	建築法規Ⅱ		○	○
	建築一般構造Ⅰ	○		○
	建築一般構造Ⅱ		○	○
	構造力学Ⅰ	○		○
	構造力学Ⅱ		○	○
	情報処理論	○		
	建築施工法Ⅰ		○	○
特別	キャリアデザインⅠ	○	○	

## 2年次

	分野	科目名	開講期		オンライン 対象科目
			前期	後期	
必修科目		設計製図Ⅱ	○	○	
		建築製図Ⅱ	○	○	
		CAD設計製図Ⅱ	○		
		設計実習Ⅱ	○		
		卒業制作		○	
専門科目	意匠設計	意匠設計Ⅰ	○		
		意匠設計Ⅱ a		○	
		意匠設計Ⅱ b		○	
	構造設計	構造設計Ⅰ	○		
		構造設計Ⅱ a		○	
		構造設計Ⅱ b		○	
選択科目		CAD設計製図Ⅲ		○	
		建築計画Ⅲ		○	○
		建築構造学	○		
		建築士試験講座Ⅰ	○		○
		建築士試験講座Ⅱ		○	○
基幹科目		建築環境工学	○		○
		建築設備		○	○
		建築材料学Ⅰ	○		○
		建築材料学Ⅱ		○	○
		建築施工法Ⅱ	○		○
		建築積算		○	○
特別		キャリアデザインⅡ	○	○	

科目名： 設計製図Ⅰ		【実習】		
英文名： Architectural Plan, Design and Drawing I				
担当者：	岸上純子、吉井歳晴、吉田裕彦			
	本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作物とその作業を実務視点から批評を行う。			
開講年次：	1年次	開講期：	通年	科目区分： 専門 必修 単位数： 6単位
<p>■授業概要</p> <p>建築の計画から設計までの一連の基本手順を理解し、実行できることを目的とする。建築設計といっても図面を描くことだけでなく、①課題（与条件）の読解・分析、②現地調査、③過去の事例研究、④居心地・空間性の理解、⑤建築計画（機能）、⑥構造計画、⑦制作姿勢の自然化（身体化）、⑧プレゼンテーションの自然化（身体化）、⑨チーム運営など本質的な設計力を身につける。</p> <p>第1回：第1課題 建築計画・設計の基礎その1…プレゼンテーショントレーニング「住吉の長屋プレゼン」図面トレ  第2回：第1課題 建築計画・設計の基礎その2…プレゼンテーショントレーニング「住吉の長屋プレゼン」現地見学  第3回：第1課題 建築計画・設計の基礎その3…プレゼンテーショントレーニング「塔の家」空間体験実験  第4回：第1課題 建築計画・設計の基礎その4…模型作製テクニック「住吉の長屋プレゼン」模型制作  第5回：第2課題 「天満橋のカフェ」…課題研究  第6回：第2課題 「天満橋のカフェ」…環境模型・敷地模型制作のテクニック  第7回：第2課題 「天満橋のカフェ」…図面化のテクニック1  第8回：第2課題 「天満橋のカフェ」…課題提出・講評会  第9回：第3課題 「商空間の設計」…インテリアの配置計画テクニック  第10回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…課題研究  第11回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…検討（スタディ）のテクニック1  第12回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…検討（スタディ）のテクニック2  第13回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…図面化のテクニック1  第14回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…プレゼンテーションテクニック  第15回：第5課題 （夏季課題）「展示会を企画する」…展示会企画の企画・マネジメント1  第16回：第6課題 「すまいの設計」…課題発表、現地調査  第17回：第6課題 「すまいの設計」…現地調査の模型化、周辺環境の分析  第18回：第6課題 「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（平面）  第19回：第6課題 「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（断面）  第20回：第6課題 「すまいの設計」…中間発表  第21回：第6課題 「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（平面）  第22回：第6課題 「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（断面）  第23回：第6課題 「すまいの設計」…模型作成テクニック  第24回：第6課題 「すまいの設計」…中間発表  第25回：第6課題 「すまいの設計」…課題提出・講評会  第26回：第7課題 「都市への提案」…課題説明、チーム編成  第27回：第7課題 「都市への提案」…現地調査その1（都市空間の発見）  第28回：第7課題 「都市への提案」…現地調査その2（都市空間の分析）  第29回：第7課題 「都市への提案」…現地調査の図面化、発表会  第30回：第7課題 「都市への提案」…都市空間の構想  第31回：第7課題 「都市への提案」…都市空間の計画と図面化、発表会準備  第32回：第7課題 「都市への提案」…プレゼンテーション発表会、講評、ふりかえり</p> <p>■教科書  初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）</p> <p>■参考文献  建築MAP大阪/神戸（TOTO出版）、コンパクト建築資料集成〔日本建築学会編〕（丸善）</p> <p>■到達目標  建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。</p> <p>■試験方法  試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準  課題60%、エスキスのまとめ15%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ  毎回の自宅課題は、必ず期日までに提出すること。課題のボリュームを事前に確認し、学修スケジュールを立て、計画的に進めるように。また、自宅課題以外にも、建築の見学やスケッチ、エスキスをする習慣をつけ、また建築雑誌や建築文献を読むなど、普段から建築に関心を持ち自発的に学ぶ姿勢をもつこと。</p>				

科目名： 建築製図Ⅰ

【実習】

英文名： Architectural Drafting and the Development of its Skill I

担当者： 杉元孝治

本科目は、建築実務設計の経験が長く、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務家の視点から知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等の指導を行う。

開講年次： 1年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

## ■授業概要

業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、製図規則の理解からスタートし、平屋建て住宅から2階建て住宅まで、課せられた条件のもとで計画・設計を行い建築一般図面の作図までを行う。後期については、木造2階建て住宅及びRC造公共建築物の建築設計製図について学ぶ。また、真剣にこれらと向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力なども同時に養成する。

第1回：第1ターム「製図の基本規則①」…ガイダンス、製図道具の使い方、線と文字の意味理解と習熟 その1

第2回：第1ターム「製図の基本規則②」…線と文字の意味理解と習熟 その2

第3回：第1ターム「製図の基本規則③」…立体と空間の理解と習熟

第4回：第2ターム「各種建築記号の理解」…建築物と各図との関連理解 その1

第5回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解①」…建築物と各図との関連理解 その2

第6回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解②」…建築物と各図との関連理解 その3

第7回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解③」…建築物と各図との関連理解 その4

第8回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解④」…建築物と各図との関連理解 その5

第9回：第3ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 計画・設計 その1

第10回：第3ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 一般図の作図 その1

第11回：第3ターム「建築設計製図課題③」…木造平屋建住宅 一般図の作図 その2

第12回：前期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」

第13回：前期製図試験 その1（前期復習課題）

第14回：前期製図試験 その2（前期復習課題）

第15回：夏期ターム「木造住宅、RC造住宅 ①」…構造の異なる住宅の設計 構造と設計の理解

第16回：夏期ターム「木造住宅、RC造住宅 ②」…構造の異なる住宅の製図 構造と製図規則の理解

第17回：課題提出、前期講評

第18回：第4ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 平面詳細図 その1

第19回：第4ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 平面詳細図 その2

第20回：第4ターム「建築設計製図課題③」…木造平屋建住宅 矩計の理解

第21回：第4ターム「建築設計製図課題④」…木造平屋建住宅 矩計と各伏図の関係

第22回：第4ターム「建築設計製図課題⑤」…木造平屋建住宅 構造図と矩計図

第23回：第5ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 展開図 その1

第24回：第5ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 展開図 その2

第25回：第6ターム「建築設計製図課題①」…木造2階建住宅 一般図の作図 その1

第26回：第6ターム「建築設計製図課題②」…木造2階建住宅 一般図の作図 その2

第27回：第6ターム「建築設計製図課題③」…木造2階建住宅 構造図と矩計図

第28回：冬期ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 構造図（床伏図） その1

第29回：冬期ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 構造図（軸組図） その2

第30回：冬期ターム「建築設計製図課題③」…木造平屋建住宅 構造図（軸組模型） その3

第31回：冬期課題提出・学年末製図試験「傾向と対策」

第32回：学年末製図試験（与条件の読み取りから作図まで総合課題）、ふりかえり

## ■教科書

建築製図 基本の基本（学芸出版）

## ■参考文献

建築構法（市ヶ谷出版）、必携 建築資料（ビジュアルハンドブック）（実教出版）

## ■到達目標

木造建築物の設計・製図能力を身につける。

## ■試験方法

定期試験（実技）を行う。

## ■成績評価基準

定期製図試験60%、通常課題（夏・冬課題含）25%、受講姿勢15%を原則とする。

## ■受講生へのメッセージ

- ・前期・後期とも、出席率が80%未満の者は原則として定期試験の受験資格が無い。
- ・病欠や忌引きのとき、または不慮の事故等の際は必ずすみやかに担当者まで連絡し、指示を受けて下さい。

科目名： CAD設計製図 I		【実習】		
英文名： Computer Aided Design I				
担当者：	鳥居久晃			
	本科目は、CADデザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。			
開講年次： 1年次	開講期： 後期	科目区分： 専門	必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>今日、CADはかつての手描きに製図に代わり一般的な製図道具となっている。本科目では、CADによる設計製図を通して、基本練習を中心として基本的な建築図面の作成までを課題を通して学んでもらうと共に、CADの基本操作についても習得してもらう。AutoCADを中心に実習を進める。</p> <p>第1回：講義の概要及びCAD概説…この授業でなにをするのか、CAD仕組み、利用法について学ぶ。</p> <p>第2回：第1課題-1…基本操作の練習1</p> <p>第3回：第1課題-2…基本操作の練習2</p> <p>第4回：第2課題-1…応用操作の練習1 第1課題よりのステップアップした機能の習得</p> <p>第5回：第2課題-2…応用操作の練習2</p> <p>第6回：第3課題-1…平面図の作成練習1 住宅の平面図作成</p> <p>第7回：第3課題-2…平面図の作成練習2 住宅の平面図作成</p> <p>第8回：第3課題-3…平面図の作成練習3 住宅の平面図作成</p> <p>第9回：第4課題-1…断面図の作成練習1 住宅の断面図作成</p> <p>第10回：第4課題-2…断面図の作成練習2 住宅の断面図作成</p> <p>第11回：第5課題-1…立面図の作成練習1 住宅の立面図作成</p> <p>第12回：第5課題-2…立面図の作成練習2 住宅の立面図作成</p> <p>第13回：第5課題-3…立面図の作成練習3 住宅の立面図作成</p> <p>第14回：第6課題-1…展開図の作成練習 住宅の展開図作成</p> <p>第15回：第6課題-2…展開図の作成練習 住宅の展開図作成</p> <p>第16回：習熟度テスト まとめとして時間内に課題完成を目指す。ふりかえり。</p> <p>■教科書 プリントによる。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■到達目標 実務で必須技術であるCADを使った設計製図を身に付ける。</p> <p>■試験方法 授業時間内でのCAD製図試験</p> <p>■成績評価基準 習熟度試験60%、課題30%、受講姿勢10%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 今日、CADが使えることは建築業界では必修条件です。AutoCADの操作修得から設計製図までができるようになるためには、毎回の授業時間内での理解をめざし、授業時間外での自習をすることが大切です。</p>				

科目名： 設計実習Ⅰ		【実習】		
英文名： Design Exercise I				
担当者：	片岡慎策、河内尚子、岸上純子、吉井歳晴、吉田裕彦			
	本科目は、建築意匠設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。			
開講年次： 1年次	開講期： 通年	科目区分： 専門	必修	単位数： 4単位
<p>■授業概要</p> <p>建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各課程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく課程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。設計製図Ⅰを補完する内容であり、特別講義による実務の理解も含む。</p> <p>第1回：第1課題 建築計画・設計の基礎その1…建築展見学  第2回：第1課題 建築計画・設計の基礎その1…プレゼンテーショントレーニング「住吉の長屋プレゼン」発表会  第3回：第1課題 建築計画・設計の基礎その2…模型作製テクニック1「カップマルタンの小屋」模型制作  第4回：第2課題 「天満橋の休憩所」…現地調査  第5回：第2課題 「天満橋の休憩所」…サーベイの結果発表会  第6回：第2課題 「天満橋の休憩所」…検討（スタディ）のテクニック1  第7回：第2課題 「天満橋の休憩所」…図面化のテクニック1  第8回：第3課題 「商空間の設計」…課題研究・現地調査  第9回：第3課題 「商空間の設計」…課題提出・講評会  第10回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…課題研究  第11回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…現地調査・レクチャー  第12回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…検討（スタディ）のテクニック2  第13回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…図面化のテクニック2  第14回：第4課題 「居心地のいい空間を設計する」…課題提出・講評会  第15回：第5課題 （夏季課題）「展示会を企画する」…展示会企画の企画・マネジメント2  第16回：第6課題 「すまいの設計」…課題発表、現地調査  第17回：第6課題 「すまいの設計」…現地調査の模型化、周辺環境の分析  第18回：第6課題 「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（平面）  第19回：第6課題 「すまいの設計」…施主プレゼン  第20回：特別講義 レクチャーとワークショップ  第21回：第6課題 「すまいの設計」…打合せ記録の書き方  第22回：第6課題 「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（断面）  第23回：第6課題 「すまいの設計」…模型作成テクニック  第24回：第6課題 「すまいの設計」…プレゼンテーションテクニック  第25回：第6課題 「すまいの設計」…まとめ  第26回：第7課題 「都市への提案」…課題説明、チーム編成  第27回：第7課題 「都市への提案」…現地調査その1（都市空間の発見）  第28回：第7課題 「都市への提案」…現地調査その2（都市空間の分析）  第29回：第7課題 「都市への提案」…現地調査の図面化、発表会  第30回：第7課題 「都市への提案」…都市空間の構想  第31回：第7課題 「都市への提案」…都市空間の計画と図面化、発表会準備  第32回：第7課題 「都市への提案」…プレゼンテーション発表会、講評</p> <p>■教科書  初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）</p> <p>■参考文献  建築MAP大阪/神戸（TOTO出版）、コンパクト建築資料集成〔日本建築学会編〕（丸善）</p> <p>■到達目標  建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。</p> <p>■試験方法  試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準  課題60%、エスキスのまとめ15%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ  毎回の自宅課題は、必ず期日までに提出すること。課題のボリュームを事前に確認し、学修スケジュールを立て、計画的に進めるように。また、自宅課題以外にも、建築の見学やスケッチ、エスキスをする習慣をつけ、また建築雑誌や建築文献を読むなど、普段から建築に関心を持ち自発的に学ぶ姿勢をもつこと。</p>				

科目名： 構造力学基礎

【講義】

英文名： Exercise on Structural Mechanics

担当者： 松田財秀

本科目は、建築構造設計への造詣が深く実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 専門 選択

単位数： 2単位

## ■授業概要

建築には芸術的な面と工学的な面があり、ものづくりや芸術的側面に憧れて建築の道へ踏み込んだ人は多いことでしょう。しかし建築は人間の生活の場であり、同時に安全で快適であることが要求されます。そこで工学的に解決しなければならない問題が数多く存在し、中でも構造設計分野ではその基礎となる構造力学の知識が重要となります。この講義では、理数系を苦手とする人にも構造力学が理解できるよう、演習を交えながら初歩の初歩から解説します。

- 第 1 回： 建築設計と数学と理科
- 第 2 回： 大きさと単位の仕組
- 第 3 回： 建築のさまざまな事象について計算する（1）
- 第 4 回： 建築のさまざまな事象について計算する（2）
- 第 5 回： 建築物に働く力…建築物と力学と構造設計
- 第 6 回： 力を扱う（1）合成と分解
- 第 7 回： 力を扱う（2）力のモーメント
- 第 8 回： 力を扱う（3）力のつりあい
- 第 9 回： 単純ばりの反力を求める（1）
- 第 10 回： 単純ばりの反力を求める（2）、中間試験
- 第 11 回： 単純ばりの反力を求める（3）
- 第 12 回： 単純ばりの反力を求める（4）
- 第 13 回： 部材に生じる力について…荷重・反力と応力、外力と内力
- 第 14 回： 単純ばりの応力を求める（1）
- 第 15 回： 単純ばりの応力を求める（2）
- 第 16 回： 定期試験 講義ふりかえり

## ■教科書

なし（プリント配布）

## ■参考文献

初めての建築構造力学（学芸出版社）

## ■到達目標

建築設計において最低限必要な数理知識を身につけます。

## ■試験方法

定期試験を行う。

## ■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

## ■受講生へのメッセージ

毎回、関数電卓を忘れずに持参して下さい。  
基礎からの積み上げが必要な内容なので確実に出席するようにして下さい。

科目名： 図学		【講義】		
英文名： Descriptive Geometry and Drawing				
担当者：	赤代武志			
	本科目は、図法への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。			
開講年次：	1年次	開講期：	前期	科目区分： 専門 選択 単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築技術者としての観察力、描写力、表現力を身につけ、発想力や構成力を高めると共に、基本的な図法等について学ぶ。</p> <p>第 1 回： 初回ガイダンス…授業の位置づけ、目的、評価方法など</p> <p>第 2 回： 立体表現方法…表現方法の歴史を学び、図法の特性と種類を知る</p> <p>第 3 回： 平行透視図…アクソメトリック図法とアイソメトリック図法の違いと特徴を知る</p> <p>第 4 回： 平行透視図…アクソメトリック図法で立体を描く</p> <p>第 5 回： 平行透視図…アクソメトリック図法で身近な空間を描く</p> <p>第 6 回： 平行透視図…アクソメトリック図法で陰影を描く</p> <p>第 7 回： 平行透視図…アクソメトリック図法で建築物を描く</p> <p>第 8 回： 中心投影図…平行透視図法と中心投影図法の特性の違いを知る</p> <p>第 9 回： 中心投影図…1点透視図法図法で小規模事務所建築物の外観を描く</p> <p>第 10 回： 中心投影図…1点透視図法図法で事務所建築の内部空間を描く</p> <p>第 11 回： 中心投影図…1点透視図法図法で住宅の外観を描く</p> <p>第 12 回： 中心投影図…1点透視図法図法で住宅の内部空間を描く</p> <p>第 13 回： 中心投影図…2点透視図法図法で小規模事務所建築物の外観を描く</p> <p>第 14 回： 中心投影図…2点透視図法図法で住宅の内部空間を描く①</p> <p>第 15 回： 中心投影図…2点透視図法図法で住宅の内部空間を描く②</p> <p>第 16 回： 理解度チェック…各図法の特徴を理解し、描きわける、ふりかえり</p> <p>■教科書 各回ごとにプリントを用意</p> <p>■参考文献 よくわかるパースの基本と実践テクニック</p> <p>■到達目標 建築計画時において必要な構成力や表現方法について基礎技術を身につける。</p> <p>■試験方法 定期試験はおこなわない。</p> <p>■成績評価基準 各回におこなう課題提出の成果、平常点で総合評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 現代のようなデジタルな時代においても、アナログな手法と技術は無くなることはありません。授業を通して確実に立体表現のアナログな技法を身につけてください。</p>				

科目名： 福祉住環境概論		【講義】	
英文名： Housing environment coordinator			
担当者：	曾我部千鶴美		
	本科目は、建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。		
開講年次： 1年次	開講期： 前期	科目区分： 専門 選択	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>今や全人口の4人に1人が65歳以上という超高齢社会となった日本において“誰もが安心して暮らせる住まい”についての基本的な知識を習得しておくこと、またその提案や設計が出来ることは非常に重要です。この講座では、建築に関することはもちろん、医療・福祉に関しても体系的で幅広い知識を身につけることで、ケアマネジャーなど各種専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示したり、福祉用具や諸施策情報などについてもアドバイス可能な専門知識の習得を目指します。</p> <p>第 1 回： 少子高齢社会の現状と課題、日本の住環境の問題点</p> <p>第 2 回： バリアフリーとユニバーサルデザイン</p> <p>第 3 回： 住まいの整備のための基本技術1（屋内外の段差解消、床材、他）</p> <p>第 4 回： 住まいの整備のための基本技術2（建具、幅・スペース、収納、他）</p> <p>第 5 回： 住まいの整備のための基本技術3（色彩・照明、インテリア、他）</p> <p>第 6 回： 住まいの整備のための基本技術4（室温温度差への配慮、冷・暖房方法、他）</p> <p>第 7 回： 住まいの整備のための基本技術5（住宅のメンテナンス、設備機器類の保守点検）</p> <p>第 8 回： 中間試験</p> <p>第 9 回： 住まいの整備のための基本技術1（屋内外の段差解消、床材、他）</p> <p>第 10 回： 住まいの整備のための基本技術2（建具、幅・スペース、収納、他）</p> <p>第 11 回： 住まいの整備のための基本技術3（色彩・照明、インテリア、他）</p> <p>第 12 回： 住まいの整備のための基本技術4（室温温度差への配慮、冷・暖房方法、他）</p> <p>第 13 回： 住まいの整備のための基本技術5（住宅のメンテナンス、設備機器類の保守点検）</p> <p>第 14 回： 安心して暮らせるまちづくり、諸法制度</p> <p>第 15 回： 地域で取り組む福祉のまちづくり実践事例（1）</p> <p>第 16 回： 地域で取り組む福祉のまちづくり実践事例（2）、期末試験</p> <p>■教科書</p> <p>福祉住環境コーディネーター公式テキスト（東京商工会議所編）</p> <p>■参考文献</p> <p>■到達目標</p> <p>新築や住宅改修の具体的なプランニング、安全で快適なまちづくりなどに係る専門知識を身に付ける。</p> <p>■試験方法</p> <p>定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準</p> <p>定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ</p> <p>福祉住環境コーディネーターの資格取得を目指します。資格取得者は申請により別途単位認定もあります。</p>			



科目名： 意匠設計特論

【講義/演習】

英文名： Course in Architectural Design

担当者：

河内尚子、岸上純子、吉井歳晴、吉田裕彦

本科目は、建築意匠設計への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 専門

選択

単位数： 2単位

## ■授業概要

建築の計画から設計までの一連の基本手順を理解し、実行できることを目的とする。建築設計といっても図面を描くことだけでなく、①課題（与条件）の読解・分析、②現地調査、③過去の事例研究、④居心地・空間性の理解、⑤建築計画（機能）、⑥構造計画、⑦制作姿勢の自然化（身体化）、⑧プレゼンテーションの自然化（身体化）、⑨チーム運営など本質的な設計力を身につける。設計製図Ⅰ・設計演習Ⅰの連携授業と位置付けられます。建築設計を目指す学生を対象とし、実習や見学を通して課題に取り組み、意匠設計業務に必要な読解力・計画力、表現力などを養うことを目標とする。

第 1 回： 演習1 「空間論」…日本建築空間①気候、風土、宗教観からみる日本建築空間

第 2 回： 演習1 「空間論」…日本建築空間②空間の分割と不可、継時的空間構成

第 3 回： 演習1 「空間論」…時空間論

第 4 回： 演習1 「空間論」…場所

第 5 回： 演習1 「空間論」…均質空間

第 6 回： 演習1 「空間論」…近代空間理論とその展開

第 7 回： 演習1 「設計手法」…建築家の設計手法①戦後の住宅作家達の試み

第 8 回： 演習1 「設計手法」…建築家の設計手法②戦後建築の軌跡

第 9 回： 演習1 「設計手法」…建築家の設計手法③現代建築家の位置

第 10 回： 演習1 「設計手法」…建築家の設計手法④現代建築家の発想

第 11 回： 演習1 「設計手法」…建築家の設計手法⑤将来の建築

第 12 回： 演習2 「建築読解・批評」…全体計画エスキース・打合せ

第 13 回： 演習2 「建築読解・批評」…全体計画エスキース・打合せ

第 14 回： 演習2 「建築読解・批評」…全体計画エスキース・打合せ

第 15 回： 演習2 「建築読解・批評」…全体計画エスキース・打合せ

第 16 回： 総括・講評

## ■教科書

なし

## ■参考文献

コンパクト建築設計資料集成(丸善)、初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ(彰国社)

## ■到達目標

建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。

## ■試験方法

試験は行わない。

## ■成績評価基準

課題70%、小レポート15%、受講姿勢15%を原則とする。

## ■受講生へのメッセージ

長年建築業界で設計業務をされている先生(非常勤講師)方から実務に近い課題を出題。設計業務に必要な発想力・構築力・表現力を実務に近い作業内容から学ぶ。

科目名： 構造設計特論		【講義】		
英文名： Course in Structural Design				
担当者：	宗林功			
	本科目は、構造設計への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。			
開講年次：	1年次	開講期：	後期	科目区分： 専門 選択 単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>各種構造(木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造等)の構造計画法および構造設計法について学び、構造計画と共に、各種構造の部材断面の考え方、設計法にまで掘り下げて構造技術者の基本となる考え方等について学ぶ。</p> <p>第 1 回： 初回ガイダンス…授業の位置づけ、評価方法等</p> <p>第 2 回： 構造計画と構造設計について…構造計画と建築計画との関連について</p> <p>第 3 回： 荷重について…建物に作用する荷重について</p> <p>第 4 回： フレームについて…各種フレームについて</p> <p>第 5 回： 木質構造系の構造計画について…木質構造の構造計画について</p> <p>第 6 回： 木質構造系の構造設計について1…各種木質構造の構造設計について</p> <p>第 7 回： 木質構造系の構造設計について2…各種木質構造の構造設計について</p> <p>第 8 回： 鉄筋コンクリート構造系の構造計画について…鉄筋コンクリート構造の特性等について</p> <p>第 9 回： 鉄筋コンクリート構造系の構造設計について1…鉄筋コンクリート構造の仮定断面について</p> <p>第 10 回： 鉄筋コンクリート構造系の構造設計について2…鉄筋コンクリート構造の仮定断面について</p> <p>第 11 回： 鉄筋コンクリート構造系の安全性と経済性について、中間試験</p> <p>第 12 回： 鉄骨構造系の構造計画について…鉄骨構造の特性について</p> <p>第 13 回： 鉄骨構造系の構造設計について1…鉄骨構造の仮定断面について</p> <p>第 14 回： 鉄骨構造系の構造設計について2…鉄骨構造の仮定断面について</p> <p>第 15 回： 鉄骨構造系の安全性と経済性について1</p> <p>第 16 回： 各種構造の構造計画・構造設計について1…大空間等の構造物、高層建築物の考え方、定期試験</p> <p>■教科書 なし（プリント配布）</p> <p>■参考文献 現代建築学・構造設計論(鹿島出版会)、建築構造計画新技法(建築技術)、鋼構造の造形と設計（鹿島出版会）</p> <p>■到達目標 建築計画と密接に関わる構造知識を身につけます。</p> <p>■試験方法 定期試験は授業時間内におこなう。</p> <p>■成績評価基準 期末試験60%、中間試験20%、小演習20%</p> <p>■受講生へのメッセージ 建築計画同様、構造計画は大事な項目である。基本は同じであるが、構造による特性等を理解してほしい。</p>				

科目名： 建築概論（木造設計特論）		【講義】	
英文名： Specific design of wooden traditional house			
担当者：	桑田浩光		
	本科目は、木造住宅設計への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次：	1年次	開講期：	後期
科目区分：	専門	選択	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>日本の木造建築設計の本質を基礎から丁寧に学びます。910×1820ミリのグリットと勾配屋根で構成される日本の木造建築の考え方や意味の習得をめざします。</p> <p>第1回： 授業概要、木造のすまいプランニング説明</p> <p>第2回： 第1課題 トレース課題 木造住宅</p> <p>第3回： 外装・内装材、建具の納まり、建築部位の説明</p> <p>第4回： 第2課題 平屋のすまいの計画 課題説明、事例研究</p> <p>第5回： プランニングエスキース（1）平面図1</p> <p>第6回： プランニングエスキース（2）平面図2</p> <p>第7回： 平屋のすまい断面、屋根スタディ</p> <p>第8回： 平屋のすまい プレゼン作業</p> <p>第9回： 第3課題 2階建てのすまいの計画 課題説明 事例研究</p> <p>第10回： プランニングエスキース（1）平面図1</p> <p>第11回： プランニングエスキース（2）平面図2</p> <p>第12回： 2階建てのすまい 断面、屋根スタディ</p> <p>第13回： 2階建てのすまい 立面スタディ</p> <p>第14回： 2階建てのすまい プレゼン作業</p> <p>第15回： 学内作業① 木造のすまい</p> <p>第16回： 学内作業② 木造のすまい、総括・講評</p> <p>■教科書      プリント配布</p> <p>■参考文献      『チルチンびと』（風土社）、『木造住宅の設計手法』吉田桂二著（彰国社）</p> <p>■到達目標      建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店での設計業務に必要な木造設計の技術を身につけます。</p> <p>■試験方法 定期試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 課題60%、小レポート15%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 910×1820ミリのグリットと、勾配屋根で構成される木造のすまいの計画を通して、過去とつながり、現代をいきいきと生きるベースを育成する『学び』の場になります。</p>			

科目名： 建築計画 I

【講義】

英文名： Architectural Planning I

担当者： 松本司

本科目は、建築計画への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

建築というものは人間のための空間です。その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければなりません。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」「造形性」を含めた総合的造形物として創造していかねばなりません。この講義では、建築計画の概略〔総論〕から、身近な“住宅”を例に“計画”の基本的な考え方を身につけることを前提に、それぞれの学科の特色を活かしながら、建築計画の意義と必要な基礎知識を養います。

第 1 回： 計画概要…建築空間・人間のための空間・科学と芸術（時代、人、種類）・「用、力、美」

第 2 回： 過去から学ぶ…歴史・建築・空間・芸術とは（設計原理と建築について）

第 3 回： 建築に与える影響と要素(1)…自然的要素について その1

第 4 回： 建築に与える影響と要素(2)…自然的要素について その2

第 5 回： 建築に与える影響と要素(3)…人為的要素について

第 6 回： 建築における計画(1)/建築計画の役割

第 7 回： 建築における計画(2)/①構成とそのプロセス

第 8 回： 建築における計画(2)/②与条件の整理とイメージの構築

第 9 回： 振り返り及び中間試験

第 10 回： 建築の美と構成(1)/機能と形態について

第 11 回： 建築の美と構成(2)/視覚と建築について

第 12 回： 住居施設の計画(1)/住様式と住宅の変化

第 13 回： 住居施設の計画(2)/設計の進め方

第 14 回： 住居施設(1)/独立住宅など

第 15 回： 住居施設(2)/集合住宅など

第 16 回： 住居施設(3)/バリアフリー等について/建築計画 I のまとめ、期末試験

### ■教科書

プリント（主に配布プリントを中心に講義を進める）

### ■参考文献

初学者の建築講座 建築計画・改訂版（市ヶ谷出版社）、コンパクト建築設計資料集成（丸善）

### ■到達目標

建築物を実際に設計する際の基本的な知識を身につける。

### ■試験方法

定期試験を行う。但し出席率が80%に満たない場合は原則として原則として定期試験の受験資格が無い。

### ■成績評価基準

定期試験50%、中間試験30%、演習10%、受講姿勢10% を原則とする。

### ■受講生へのメッセージ

建築計画は建築空間の設計（建築設計製図）の基本となるので、しっかり理解して下さい。また、日常生活・社会との関連を意識しながら学ぶように心がけて下さい。

科目名： 建築計画Ⅱ		【講義】	
英文名： Architectural Planning Ⅱ			
担当者：	松本司		
	本科目は、建築計画への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 1年次	開講期： 後期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>この授業では、建築計画Ⅰで学んだ「総論」及び「住居施設の計画」についての要点を振り返りながら建築計画の〔各論〕から、学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設の機能・用途をその実例と演習問題を交えながら、「外部空間の計画」も含め、具体的かつ、総合的な計画手法と基礎的な知識を学びます。</p> <p>第 1 回： ガイダンス／ビルディングタイプと計画について</p> <p>第 2 回： 学校教育施設Ⅰ／幼稚園・保育所など</p> <p>第 3 回： 学校教育施設Ⅱ／小学校・中学校など</p> <p>第 4 回： 社会教育施設Ⅰ／図書館など</p> <p>第 5 回： 社会教育施設Ⅱ／美術館など</p> <p>第 6 回： 社会教育施設Ⅲ／コミュニティセンター・公民館など</p> <p>第 7 回： 福祉・医療施設Ⅰ／高齢者施設・バリアフリーなど</p> <p>第 8 回： 福祉・医療施設Ⅱ／診療所・病院など</p> <p>第 9 回： ふり取り及び中間試験</p> <p>第 10 回： 商業施設Ⅰ／事務所ビルなど</p> <p>第 11 回： 商業施設Ⅱ／劇場・音楽ホールなど</p> <p>第 12 回： 商業施設Ⅲ／①百貨店・スーパーマーケットなど</p> <p>第 13 回： 商業施設Ⅲ／②レストラン・飲食店など</p> <p>第 14 回： 商業施設Ⅳ／ホテル（旅館）・駐車場など</p> <p>第 15 回： 外部空間の計画Ⅰ／外部空間の把握</p> <p>第 16 回： 外部空間の計画Ⅱ／外部空間の計画手法／建築計画Ⅱのまとめ、期末試験</p> <p>■教科書 プリント、初学者の建築講座 建築計画・改訂版（市ヶ谷出版社）</p> <p>■参考文献 コンパクト建築設計資料集成（丸善）</p> <p>■到達目標 建築物を実際に設計する際の基本的な知識を身に付ける。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。但し出席率が80%に満たない場合は原則として原則として定期試験の受験資格が無い。</p> <p>■成績評価基準 定期試験50%、中間試験30%、演習10%、受講姿勢10% を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 建築計画は建築空間の設計（建築設計製図）の基本となるので、しっかり理解して下さい。 また、日常生活・社会との関連を意識しながら学ぶように心がけて下さい。</p>			

科目名： 建築史Ⅰ

【講義】

英文名： Architectural History Ⅰ

担当者： 岩田恵、桑田紹子

本科目は、建築史への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを西洋建築・日本建築を通じて行う。

- 第 1 回： 建築の始原…そもそも建築とは何かを問い、建築の発生について考える
- 第 2 回： エジプト・オリエント建築…西洋文明の源泉の建築を通じて建築の象徴性・意味性を中心に考える
- 第 3 回： ギリシア・ローマ建築…古典主義建築の基礎の理解、ギリシア・ローマ建築の空間比較
- 第 4 回： 初期キリスト教・ビザンチン建築…二つのキリスト教建築の空間比較
- 第 5 回： ロマネスク・ゴシック建築…非古典主義系建築の空間と西洋におけるその位置
- 第 6 回： ルネサンス建築…古典主義建築を言語としてとらえ、様式の意味と設計者の心情について考える
- 第 7 回： 古典主義建築…西洋建築の主流である古典主義建築について整理し、近代建築との関連を考える
- 第 8 回： 西洋建築まとめ・中間試験
- 第 9 回： 日本建築の特質…西洋建築との比較から日本建築の特質について考える
- 第 10 回： 神社建築…「神社」の発生を考えることから、建築の意味について考える
- 第 11 回： 寺院建築①…中国からの移入建築である寺院建築が日本建築の形成に与えたものを考える
- 第 12 回： 住宅建築①…住宅建築を中心に日本に発生した空間観を考える 間面記法、室礼、半間仕切
- 第 13 回： 寺院建築②…鎌倉期に移入された新建築の日本建築の意義を考える
- 第 14 回： 住宅建築②…書院造り・数寄屋造りを通じて、日本における様式について考える
- 第 15 回： 日本建築の空間…付加と分割、日本思想と空間、日本建築と近代建築
- 第 16 回： 定期試験・日本建築史まとめ・全講義ふりかえり

### ■教科書

コンパクト版 建築史【日本・西洋】（彰国社）

### ■参考文献

図説建築の歴史（学芸出版社）、ヨーロッパ建築史（昭和堂）、日本建築史（昭和堂）

### ■到達目標

①西洋および日本建築史の各時代の建築的特質を説明できる。②歴史を学び、現在を考え、未来を展望する意義を具体的に

### ■試験方法

定期試験をおこなう。

### ■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%

### ■受講生へのメッセージ

本講は単なる建築の歴史の暗記ではなく、今日の建築・インテリア設計に役立つものとして学ぶ姿勢が大切です。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

科目名： 建築史Ⅱ

【講義】

英文名： Architectural History Ⅱ

担当者： 岩田恵、桑田紹子

本科目は、建築史への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを近代建築を通じて行う。

第 1 回： 近代建築とは…そもそも近代とは何か、近代建築の建築史的意義について

第 2 回： 産業革命と都市問題…産業革命が建築と都市に与えた影響について

第 3 回： 新芸術運動とその展開…アーツ・アンド・クラフツ、ドイツ工作連盟等について

第 4 回： 近代前衛芸術運動と建築…イタリア未来派、ドイツ表現主義、ロシア構成主義、デ・スティール等について

第 5 回： モダニズム建築の完成と流布…バウハウスとグロピウス、インターナショナルスタイルについて

第 6 回： ライトとアメリカ近代建築の動向…アメリカの近代建築とライトの建築について

第 7 回： ル・コルビュジェとミース…ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエについて

第 8 回： 近代建築の流れの総括・中間試験

第 9 回： 日本近代建築史のとらえ方…日本における近代と近代建築の意味について

第 10 回： 西洋建築の移入と様式建築の展開…西洋建築が日本にいかに移入・受容されたかについて

第 11 回： 日本のモダニズム建築成立までの動向と展開…日本におけるモダニズム建築の特徴について

第 12 回： 戦後の日本建築界の動向…戦後復興期の日本近代建築の特徴と意義について

第 13 回： 第二次世界大戦後のモダニズム建築の動向…戦後の欧米における建築とその思想について

第 14 回： ポストモダニズム建築とそれ以後…ポストモダニズム建築の特徴とモダニズム批判の根拠について

第 15 回： 現代建築の動向…日本および世界の現代建築家の思想と作品

第 16 回： 定期試験・日本近代建築史まとめ

### ■教科書

コンパクト版 建築史【日本・西洋】（彰国社）

### ■参考文献

図説建築の歴史（学芸出版社）、ヨーロッパ建築史（昭和堂）、日本建築史（昭和堂）

### ■到達目標

①西洋および日本近代建築の建築的特質を説明できる。②歴史を学び、現在を考え、未来を展望する意義を具体的に説明で

### ■試験方法

定期試験をおこなう。

### ■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%

### ■受講生へのメッセージ

本講は単なる建築の歴史の暗記ではなく、今日の建築・インテリア設計に役立つものとして学ぶ姿勢が大切です。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

科目名： 建築法規Ⅰ		【講義】	
英文名： Building Regulation Ⅰ			
担当者：	左海晃志、鈴木健史、大成洋司		
	本科目は、建築法令への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 1年次	開講期： 前期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。</p> <p>第 1 回： 科目ガイダンス、建築法令概説…なぜ建築法令が必要か、建築法令の歴史、建築基準法の構成 読み方</p> <p>第 2 回： 用語の定義1…建築の定義、建築物の定義</p> <p>第 3 回： 用語の定義2…敷地の定義、敷地の面積</p> <p>第 4 回： 用語の定義3…居室の定義、天井の高さ、床高さ</p> <p>第 5 回： 用語の定義4…居室の採光</p> <p>第 6 回： 用語の定義5…建築面積、床面積</p> <p>第 7 回： 用語の定義6…建築物の高さ、軒高、建築物の階段</p> <p>第 8 回： 用語の定義7・中間試験…各法令のまとめと全講義のふりかえり</p> <p>第 9 回： 用語の定義8…主要構造部、構造耐力上主要な部分、耐火建築物、準耐火建築物、不燃材料、防火構造</p> <p>第 10 回： 用語の定義9…その他</p> <p>第 11 回： 単体規定1…木造の規定</p> <p>第 12 回： 単体規定2…木造耐力壁の算定</p> <p>第 13 回： 単体規定3…鉄筋コンクリート造の規定</p> <p>第 14 回： 単体規定4…鉄骨造の規定</p> <p>第 15 回： 単体規定5…補強CB造の規定</p> <p>第 16 回： 単体規定6…その他の規定、 前期まとめ、 定期試験</p> <p>■教科書</p> <p>基本建築関係法令集〔法令編〕（井上書院）</p> <p>■参考文献</p> <p>建築法規用教材（日本建築学会編）</p> <p>■到達目標</p> <p>建築計画に上欠かせない主要な建築法規と、建築実務に必要な基本的法令用語を理解するとともに、運用する力を身に付ける</p> <p>■試験方法</p> <p>中間試験と定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準</p> <p>期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ</p> <p>建築法令は、建築という実体を伴うものを文章のみの法令で規制しているため、文言が理解し辛いという面がある。その点を補うためにプリントを多数用意しており、法令とプリントとの関連に注意すること。建築法令は暗記する必要はなし。法令集の必要なページを開き、要点が理解出来ておれば充分。授業支援システムを用い、授業概要による予習と振り返り問題による復習を強く薦める。</p>			



科目名： 建築法規Ⅱ

【講義】

英文名： Building Regulation Ⅱ

担当者： 左海晃志、鈴木健史、大成洋司

本科目は、建築法令への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。

第 1 回： 集団規定1…道路の定義、道路の役割、接道義務道路内建築制限、42条第2項道路の扱い

第 2 回： 集団規定2…都市計画区域、市街化区域と市街化調整区域

第 3 回： 集団規定3…用途地域全12種の名称と違い

第 4 回： 集団規定4…建ぺい率（建築面積の敷地面積に対する割合）

第 5 回： 集団規定5…容積率（延べ床面積の敷地面積に対する割合）

第 6 回： 集団規定6…高さの制限その1 道路斜線

第 7 回： 集団規定7…高さの制限その2 隣地斜線、北側斜線

第 8 回： 集団規定8・中間試験…各法令のまとめと全講義のふりかえり

第 9 回： 集団規定9…建ぺい率・容積率・高さの制限について大演習と解説

第 10 回： 集団規定10…法22条区域、防火地域、準防火地域

第 11 回： 建築士法1…建築士の業務について

第 12 回： 建築士法2…建築士の業務について

第 13 回： 建築士法3…建築士の倫理観等について

第 14 回： 確認申請について…確認申請とは、確認申請と建築物

第 15 回： 関係法令1…建設業法、宅建業法等

第 16 回： 関係法令2…各法の概要、特定建築物、特定施設、その他、定期試験

### ■教科書

コンパクト[井上]建築関係法令集（井上書院）

### ■参考文献

特になし。

### ■到達目標

建築設計、施工に必要な法律の基礎知識を身につける。

### ■試験方法

定期試験を行う。

### ■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

### ■受講生へのメッセージ

建築法令は、建築という実態を伴うものを文章のみの法令で規制しているため、文言が理解し辛いという面がある。その点を補うためにプリントを多数用意しており、法令とプリントとの関連に注意すること。建築法令は暗記する必要はなし。法令集の必要なページを開き、要点が理解出来ておれば充分。

科目名： 建築一般構造Ⅰ

【講義】

英文名： Building ConstructionⅠ

担当者： 土屋稔

本科目は、建築一般構造への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物とは」から入り、地盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法（在来工法）を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。また、地球環境面から解体や建設廃棄物の問題についても考える。

第1回： ガイダンス及び概説…建築物の性能と構成

第2回： 構造方式の種類…ラーメン構造とトラス構造

第3回： 荷重と外力（1）…建築物に影響する力（地震力、風圧力等）

第4回： 荷重と外力（2）…構造計画に関わる用語について

第5回： 地盤について…地盤の分類と特徴

第6回： 地盤調査…標準貫入試験と土質試験

第7回： 基礎と杭（1）…支持杭と摩擦杭、打込杭と埋込杭

第8回： 基礎と杭（2）…場所打ち杭の種類と工法

第9回： 基礎と杭（3）…その他の杭（木杭等）・中間試験

第10回： 木構造（1）…木材について

第11回： 木構造（2）…木構造の基礎と軸組

第12回： 木構造（3）…筋違とその配置について

第13回： 木構造（4）…屋根勾配と和小屋組について

第14回： 木構造（5）…洋小屋組みについて

第15回： 木構造（6）…床組について

第16回： 木構造のまとめ・期末試験

### ■教科書

建築構法第Ⅲ版（市ヶ谷出版）

### ■参考文献

建築大辞典（彰国社）

### ■到達目標

建築を学ぶうえでの入門的な知識を身に付ける（設計や施工等の領域を問わない知識）

### ■試験方法

定期試験を行う。

### ■成績評価基準

期末試験50%、中間試験30%、小演習・受講姿勢20%にて評価する。

### ■受講生へのメッセージ

本科目は建築のしくみを学ぶ基礎科目です、確実に習得しましょう。

科目名： 建築一般構造Ⅱ		【講義】	
英文名： Building Construction Ⅱ			
担当者：	池内隆人		
	本科目は、建築一般構造への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 1年次	開講期： 後期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>この科目では鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造と補強コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれらの構造で造られており、その仕組みや特性についてよく理解し、その知識を血肉とすることは建築人として必須である。近年、良い建築を長く使いたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。</p> <p>第 1 回： 鉄骨造（1）…鋼材の特徴と規格について</p> <p>第 2 回： 鉄骨造（2）…鋼材の種類と形鋼</p> <p>第 3 回： 鉄骨造（3）…鉄骨構造の構造形式</p> <p>第 4 回： 鉄骨造（4）…各部材（柱・はり等について）</p> <p>第 5 回： 鉄骨造（5）…溶接について</p> <p>第 6 回： 鉄骨造（6）…高力ボルト接合</p> <p>第 7 回： 鉄骨造（7）…継手と仕口</p> <p>第 8 回： 鉄骨構造のまとめ・中間試験</p> <p>第 9 回： 鉄筋コンクリート構造（1）…鉄筋コンクリート造の特徴と構造原理</p> <p>第 10 回： 鉄筋コンクリート構造（2）…材料と配筋原理</p> <p>第 11 回： 鉄筋コンクリート構造（3）…継手と定着、あき寸法</p> <p>第 12 回： 鉄筋コンクリート構造（4）…各部材1（柱・梁）</p> <p>第 13 回： 鉄筋コンクリート構造（5）…各部材2（スラブ・壁）</p> <p>第 14 回： 壁式構造…制限等の構造基準について</p> <p>第 15 回： 補強コンクリートブロック造…コンクリートブロックの種類と制限について</p> <p>第 16 回： 鉄筋コンクリート構造のまとめ・期末試験</p> <p>■教科書 建築構法第Ⅲ版（市ヶ谷出版）</p> <p>■参考文献 建築大辞典（彰国社）</p> <p>■到達目標 建築を学ぶうえでの入門的な知識を身に付ける（設計や施工等の領域を問わない知識）</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 期末試験50%、中間試験30%、小演習・受講姿勢20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 本科目は建築のしくみを学ぶ基礎科目です、確実に習得しましょう。</p>			

科目名： 構造力学Ⅰ		【講義】	
英文名： Structural MechanicsⅠ			
担当者：	宗林功		
	本科目は、構造力学への造詣が深く構造設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 1年次	開講期： 前期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの検討を行うものである。構造力学Ⅰではその構造設計に到達するまでの前段階、つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱うかという基礎理論から、静定構造物の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。</p> <p>第1回： 建築物に働く力…建築物の骨組、力学と構造設計の関係、建築物に働く力について</p> <p>第2回： 力の基本…力の合成と分解、力のモーメント</p> <p>第3回： 構造物のモデル化…構造物の種類、支点と節点、荷重および外力の種類、構造物をモデル化すること</p> <p>第4回： 反力1…力のつりあいと反力、反力計算の方法</p> <p>第5回： 反力2…静定構造物（単純梁・片持梁）の支点到に生じる反力について、解説と演習</p> <p>第6回： 反力3…静定構造物（ラーメン・トラス）の支点到に生じる反力について、解説と演習</p> <p>第7回： 静定構造物の解析1…構造物に生ずる力の種類、力の表し方、求め方</p> <p>第8回： 静定構造物の解析2…各種の荷重が作用する単純梁の応力解析について、解説と演習</p> <p>第9回： 静定構造物の解析3…各種の荷重が作用する片持梁の応力解析について、解説と演習、中間試験</p> <p>第10回： 静定構造物の解析4…静定ラーメン（単純梁系、片持梁）の応力解析について、解説と演習</p> <p>第11回： 静定構造物の解析5…3ヒンジラーメンやゲルバー梁の応力解析について、解説と演習</p> <p>第12回： 静定構造物の解析6…静定梁、静定ラーメンの応力解析まとめ</p> <p>第13回： 静定構造物の解析7…静定トラスとは、静定トラスの各部材に生じる力</p> <p>第14回： 静定構造物の解析8…節点法による静定トラスの応力解析について1、解説と演習</p> <p>第15回： 静定構造物の解析9…切断法による静定トラスの応力解析について2、解説と演習</p> <p>第16回： 静定構造物の構造力学についてまとめ、期末試験</p> <p>■教科書 初めての建築構造力学（学芸出版社）</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■到達目標 安全な建築物を設計するための基礎知識を身に付ける。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 毎回、関数電卓を忘れずに持参すること。 計算そのものは簡単な数式だが、基礎からの積み上げが必要な内容なので確実に出席するようにして下さい。</p>			

科目名： 構造力学Ⅱ

【講義】

英文名： Structural Mechanics Ⅱ

担当者： 宗林功

本科目は、構造力学への造詣が深く構造設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

#### ■授業概要

構造力学Ⅱでは材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学Ⅰで学んだ内容を基に、静定構造物の応力解析から各部材の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不静定構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。

第1回： 構造力学Ⅰの復習… 静定構造物の反力計算から応力解析についてのまとめ

第2回： 材料力学1… 応力と応力度、応力度の種類、ひずみ度、ポアソン比とは

第3回： 材料力学2… 弾性体の性質、弾性と塑性、応力度-ひずみ度曲線とヤング係数

第4回： 材料力学3… 材料強度、許容応力度と安全率、材料力学まとめ及び演習課題

第5回： 断面の性質1… 断面1次モーメントと図心、断面2次モーメントの求め方とその意味

第6回： 断面の性質2… 断面係数、断面2次半径、断面の主軸

第7回： 断面の性質3… 断面の性質まとめ及び演習課題

第8回： 部材の設計1… 引張材の設計について解説と演習、引張応力度、有効断面積

第9回： 部材の設計2… 曲げ材の設計について解説と演習1、曲げ応力度、せん断応力度

第10回： 部材の設計3… 曲げ材の設計について解説と演習2、 中間試験

第11回： 部材の設計4… 圧縮材の設計について解説と演習1、圧縮応力度、オイラーの長柱公式

第12回： 梁の変形… 単純梁や片持梁のたわみとたわみ角、モールの定理について解説と演習

第13回： 不静定構造物の解析1… 不静定梁の解析と演習、不静定力とは

第14回： 不静定構造物の解析2… 不静定ラーメンの応力（固定モーメント法）

第15回： 不静定構造物の解析3… 不静定ラーメンの応力（D値法、その他略算法）

第16回： 不静定構造物の解析4… 不静定構造物の解析まとめ、期末試験

#### ■教科書

初めての建築構造力学（学芸出版社）

#### ■参考文献

特になし。

#### ■到達目標

安全な建築物を設計するための基礎知識を身に付ける。

#### ■試験方法

定期試験を行う。

#### ■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

#### ■受講生へのメッセージ

毎回、関数電卓を忘れずに持参すること。

計算そのものは簡単な数式だが、基礎からの積み上げが必要な内容なので確実に出席するようにして下さい。

科目名： 情報処理論		【講義／演習】	
英文名： Information Processing			
担当者：	鳥居久晃		
	本科目は、情報処理およびCAD設計への造詣が深くその実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。		
開講年次： 1年次	開講期： 前期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築技術者でも、ITリテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情報処理の基礎として、誰もがパソコンに触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることより使用法等についても学ぶ。</p> <p>第 1 回： 初回ガイダンス…授業の位置づけ、評価方法、コンピュータについて（ハード面等での説明）等</p> <p>第 2 回： ワードプロソフト（Word）による演習1</p> <p>第 3 回： ワードプロソフト（Word）による演習2</p> <p>第 4 回： ワードプロソフト（Word）による演習3</p> <p>第 5 回： まとめと演習課題</p> <p>第 6 回： 表計算ソフト（Excel）による演習1</p> <p>第 7 回： 表計算ソフト（Excel）による演習2</p> <p>第 8 回： 表計算ソフト（Excel）による演習3</p> <p>第 9 回： まとめと演習課題</p> <p>第 10 回： 画像処理ソフト（GIMP）の利用</p> <p>第 11 回： 3D-CGソフト（SketchUp）の利用1</p> <p>第 12 回： 3D-CGソフト（SketchUp）の利用2</p> <p>第 13 回： PowerPointによるプレゼンテーション技法1…PowerPointとは</p> <p>第 14 回： PowerPointによるプレゼンテーション技法2…PowerPointによる演習1</p> <p>第 15 回： PowerPointによるプレゼンテーション技法3…PowerPointによる演習2</p> <p>第 16 回： プレゼンテーション発表会、講評</p> <p>■教科書 配布プリント</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■到達目標 設計、施工からステークホルダーに対するプレゼンテーションに至るまで必要不可欠なスキルを身に付ける。</p> <p>■試験方法 なし</p> <p>■成績評価基準 課題70%、小レポート15%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ PCでのデータ処理・文書作成・プレゼン資料の作成は、現代人の基本的スキルとなっている。勉強や仕事を効率的かつ効果的に行うためにもその正しい使い方を修得することは必要です。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名： 建築施工法 I		【講義】	
英文名： Construction Method I			
担当者：	竹中智司		
	本科目は、工事現場への造詣が深く、又現場管理及び設計監理実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 1年次	開講期： 後期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを言います。この建築施工法 I の講義では、建築施工における基本的な用語や施工方法などを系統的に学習し、建築技術者として最低限知っておくべき施工知識を学びます。また、2年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。</p> <p>第 1 回： 建築施工の意義、講義の位置づけ</p> <p>第 2 回： 施工計画（1）…施工計画にあたり注意すべき事項、各種工程表について</p> <p>第 3 回： 施工計画（2）…各種工程表の特色と理解</p> <p>第 4 回： 地盤調査…地盤調査と各種試験法</p> <p>第 5 回： 仮設工事…足場や仮囲い、材料の保管</p> <p>第 6 回： 土工事…山止め、地盤現象とその原因</p> <p>第 7 回： 地業、基礎工事…各地業、杭の種類と特徴</p> <p>第 8 回： 鉄骨工事…鉄骨構造の工事計画、材料や加工・接合方法など</p> <p>第 9 回： 鉄筋コンクリート工事…型枠工事、鉄筋工事、コンクリート工事</p> <p>第 10 回： 中間試験…仮設計画及び鉄筋コンクリート工事のまとめ</p> <p>第 11 回： 木工事 …木質構造の特徴と種類、工事計画、材料や加工</p> <p>第 12 回： 補強コンクリートブロック工事…補強コンクリートブロックを使用した工法や特色、材料について</p> <p>第 13 回： 防水工事・屋根工事…防水工事の各種工法や特徴。屋根葺き材料ごとの工法や特徴</p> <p>第 14 回： 左官工事…各種下地と仕上げ材料による工法や特徴</p> <p>第 15 回： タイル、張り石工事、建具、内装工事…タイル、張り石工事の工法や特徴、建具、内装工事</p> <p>第 16 回： 定期試験…仕上工事のまとめ</p> <p>■教科書 建築施工法 I 講義用テキスト（本校作成テキスト）</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■到達目標 建築施工において必要な基礎知識を身につけます。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 基本的な施工用語や工法を知ることは技術者として当たり前のことです。頑張りましょう。</p>			

科目名： キャリアデザイン I		【講義】	
英文名： Career Design I			
担当者：	クラス担任、伊藤賢一、善才雅夫		
	業界技術者、高等学校での教員職、採用コンサルタントの各職務経験を有する教員陣が担当する。		
開講年次： 1年次	開講期： 通年	科目区分： 特別 必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>①業界における仕事力を高めるべく、業界の構成、仕組み、役割、仕事の内容、立ち位置などを知り、目指す方向性を見出すための知識を習得する。次に、実際の就職活動を想定した履歴書作成、面接対策等のトレーニングを重ねる。②就職活動のみならず社会人としても基礎学力の確実な養成は不可欠である。国語、数学を主とした中学校、高等学校レベルの基礎学力向上を図る。</p> <p>第 1 回： ガイダンス／当授業科目の概要、目的、到達目標について、就職対策、基礎学力の双方から解説する。  第 2 回： 就職対策①／学生、アルバイトと社会人との違いについて。  第 3 回： 基礎学力①／漢字チェックテスト、計算チェックテストの実施。  第 4 回： 就職対策②／社会人として、組織人としての役割、責任、自覚。  第 5 回： 基礎学力②／国語・説明的文章：接続語、数学：正の数、負の数、式の計算  第 6 回： 就職対策③／業界を知る1。総合建設会社、ハウスメーカー  第 7 回： 基礎学力③／国語・説明的文章：指示語、数学：平方根  第 8 回： 就職対策④／業界を知る2。工務店、建築設計事務所、その他。  第 9 回： 基礎学力④／国語・説明的文章：文章内容読み取り、数学：1次方程式  第 10 回： 就職対策⑤／職種を知る1。設計職  第 11 回： 基礎学力⑤／国語・説明的文章：理由を捉える、数学：連立方程式  第 12 回： 就職対策⑥／職種を知る2。施工管理職  第 13 回： 基礎学力⑥／国語・説明的文章：筆者の主張を読み取る、数学：2次方程式  第 14 回： 就職対策⑦／職種を知る3。その他の職種（積算職、営業職、インテリアコーディネーター他）  第 15 回： 基礎学力⑦／国語・文学的文章：言葉を考える、数学：比例と反比例  第 16 回： 就職対策⑧／就職活動の流れ1。志望企業の選択から具体的な活動に至るまで。  第 17 回： 基礎学力⑧／国語・文学的文章：様子を考える、数学：1次関数  第 18 回： 就職対策⑨／就職活動の流れ2。大企業と中小企業、採用スケジュールの違い。  第 19 回： 基礎学力⑨／国語・文学的文章：心情の読み取り、数学：関数 <math>y=ax^2</math>  第 20 回： 就職対策⑩／求人票の見方1。会社データ、募集条件（社会保険）  第 21 回： 基礎学力⑩／国語・文学的文章：理由を捉える、数学：確率  第 22 回： 就職対策⑪／求人票の見方2。採用職種、募集条件（待遇）、選考方法  第 23 回： 基礎学力⑪／国語・文学的文章：表現の特徴を捉える、数学：平面図形  第 24 回： 就職対策⑫／選考方法を知る。書類選考、SPI試験、エントリーシート、面接  第 25 回： 基礎学力⑫／国語・古文：動作主を捉える、数学：空間図形  第 26 回： 就職対策⑬／履歴書を書く1。自己PRの作成  第 27 回： 基礎学力⑬／国語・古文：主題を読み取る、数学：三角形と四角形  第 28 回： 就職対策⑭／履歴書を書く2。志望動機の作成  第 29 回： 基礎学力⑭／国語・漢文、数学：円  第 30 回： 就職対策⑮／履歴書を書く3。全体構成の把握  第 31 回： 国語チェックテスト、数学チェックテスト  第 32 回： 履歴書完成 特定企業を想定した本作成</p>			
<p>■教科書 プリント利用</p>			
<p>■参考文献 授業の中で適時紹介します。</p>			
<p>■到達目標 社会人意識醸成し、ビジネス基礎力を身に付ける。</p>			
<p>■試験方法 履歴書の成果物、国語・数学のチェックテストを試験とします。</p>			
<p>■成績評価基準 提出物20%、出席点80%で評価します。</p>			
<p>■受講生へのメッセージ 本校の学びは社会、仕事に直結しています。目指す業界、職種に就くことを強く意識し、未来を見据えて取り組んでください。合わせて、単なる就職対策としてではなく、社会人として最低限の基礎学力を身につけてください。</p>			



科目名： 設計製図Ⅱ		【実習】		
英文名： Architectural Plan, Design and Drawing II				
担当者：	岸上純子、桑田浩光、吉井歳晴、吉田裕彦			
	本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の実作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。			
開講年次： 2年次	開講期： 通年	科目区分： 専門	必修	単位数： 6単位
<p>■授業概要</p> <p>設計製図Ⅰで①課題(与条件)の読解・分析、②現地調査、③過去の事例研究、④居心地・空間性の理解、⑤建築計画(機能)、⑥構造計画、⑦制作姿勢の自然化(身体化)、⑧プレゼンテーションの自然化(身体化)など本質的な設計力を身につける。事務所ビル、集合住宅、図書館、博物館を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解する。</p> <p>第1回：第1課題「事務所ビル」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理  第2回：第1課題「事務所ビル」…建物与条件の整理と全体構想その1(エスキス)  第3回：第1課題「事務所ビル」…建物与条件の整理と全体構想その2(エスキス)  第4回：第1課題「事務所ビル」…模型作製  第5回：第1課題「事務所ビル」…建築一般図(配置図、平面図)の解説と作図実習  第6回：第1課題「事務所ビル」…建築一般図(断面図、立面図他)の解説と作図実習  第7回：第1課題「事務所ビル」…プレゼンテーション用図面(建築一般図の整理、内外観パース他)作製その1  第8回：第1課題「事務所ビル」…プレゼンテーション用図面(建築一般図の整理、内外観パース他)作製その2  第9回：第2課題「集合住宅」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理  第10回：第2課題「集合住宅」…建物与条件の整理と全体構想その1(エスキス)  第11回：第2課題「集合住宅」…建物与条件の整理と全体構想その2(エスキス)  第12回：第2課題「集合住宅」…模型作製  第13回：第2課題「集合住宅」…模型作製  第14回：第2課題「集合住宅」…模型作製  第15回：第2課題「集合住宅」…建築一般図(配置図、平面図)の解説と作図実習  第16回：第2課題「集合住宅」…建築一般図(断面図、立面図他)の解説と作図実習  第17回：第2課題「集合住宅」…プレゼンテーション用図面(建築一般図の整理、内外観パース他)作製  第18回：第3課題「図書館」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理  第19回：第3課題「図書館」…建物与条件の整理と全体構想その1(エスキス)  第20回：第3課題「図書館」…建物与条件の整理と全体構想その2(エスキス)  第21回：第3課題「図書館」…計画のまとめ  第22回：第3課題「図書館」…模型作製  第23回：第3課題「図書館」…建築一般図(配置図、平面図)の解説と作図実習  第24回：第3課題「図書館」…建築一般図(断面図、立面図他)の解説と作図実習  第25回：第3課題「図書館」…提出用図面(配置図・平面図・断面図・立面図)作製と整理  第26回：第4課題「美術館」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理  第27回：第4課題「美術館」…建物与条件の整理と全体構想その1(エスキス)  第28回：第4課題「美術館」…建物与条件の整理と全体構想その2(エスキス)  第29回：第4課題「美術館」…建物与条件の整理と全体構想その3(エスキス)  第30回：第4課題「美術館」…計画まとめ  第31回：第5課題「ビジネスホテルとの複合施設」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理  第32回：第5課題「ビジネスホテルとの複合施設」…計画まとめ、ふりかえり</p> <p>■教科書  初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ(彰国社)</p> <p>■参考文献  建築MAP大阪/神戸(TOTO出版)、コンパクト建築資料集成[日本建築学会編](丸善)</p> <p>■到達目標  建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。</p> <p>■試験方法  試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準  課題60%、エスキスのまとめ15%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ  公共建築物の計画を通して建築の成り立ちを理解すると共に、図面や模型を通じて人に伝えることの大切さを知ってほしい。また、作品として完成できた時の喜びを是非味わってもらいたい。  出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない(欠格条件)</p>				

科目名： 建築製図Ⅱ		【実習】		
英文名： Architectural Drafting and the Development of its Skill II				
担当者：	杉本考治			
	本科目は、建築実務設計の経験が長く、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務家の視点から知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等の指導を行う。			
開講年次： 2年次	開講期： 通年	科目区分： 専門	必修	単位数： 4単位
<p>■授業概要</p> <p>建築業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各チームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、課せられた諸条件のもとで鉄筋コンクリート構造の4階建事務所ビルの計画・設計を行い、建築一般図面や各詳細図、構造図の作図までを学ぶ。後期については、鉄骨造4階建て建築物の計画・設計を行い、一般図から構造図等の作図を行う。同時に、真剣に設計作業や図面と向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。</p> <p>第1回：第7チーム「建築設計製図課題①」…RC造の計画と設計・製図（作図）手法について</p> <p>第2回：第7チーム「建築設計製図課題②」…RC4階建て事務所ビル 平面図、断面図、立面図 その1</p> <p>第3回：第7チーム「建築設計製図課題③」…RC4階建て事務所ビル 平面図、断面図、立面図 その2</p> <p>第4回：第7チーム「建築設計製図課題④」…RC4階建て事務所ビル 平面図、断面図、立面図 その3</p> <p>第5回：第8チーム「建築設計製図課題①」…RC4階建て事務所ビル 納まりの設計演習 その1（内部詳細）</p> <p>第6回：第8チーム「建築設計製図課題②」…RC4階建て事務所ビル 納まりの設計演習 その2（内部詳細）</p> <p>第7回：第8チーム「建築設計製図課題③」…RC4階建て事務所ビル 矩計図詳細図 その1</p> <p>第8回：第8チーム「建築設計製図課題④」…RC4階建て事務所ビル 矩計図詳細図 その2</p> <p>第9回：第9チーム「建築設計製図課題①」…RC4階建て事務所ビル 平面詳細図 その1</p> <p>第10回：第9チーム「建築設計製図課題②」…RC4階建て事務所ビル 平面詳細図 その2</p> <p>第11回：第9チーム「建築設計製図課題③」…RC4階建て事務所ビル 階段詳細図1</p> <p>第12回：第9チーム「建築設計製図課題④」…RC4階建て事務所ビル 階段詳細図2</p> <p>第13回：前期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」</p> <p>第14回：前期製図試験 その1</p> <p>第15回：前期製図試験 その2</p> <p>第16回：夏期チーム「建築設計製図課題演習①」…夏期課題：集合住宅（RC造）</p> <p>第17回：課題提出、前期試験講評</p> <p>第18回：第10チーム「建築設計製図課題①」…RC4階建て事務所ビル 構造計画と構造図1</p> <p>第19回：第10チーム「建築設計製図課題②」…RC4階建て事務所ビル 構造計画と構造図2</p> <p>第20回：第11チーム「建築設計製図課題①」…鉄骨造の計画と設計・製図（作図）手法について</p> <p>第21回：第11チーム「建築設計製図課題②」…S造4階建て事務所ビル 床伏図 その1</p> <p>第22回：第11チーム「建築設計製図課題③」…S造4階建て事務所ビル 床伏図 その2</p> <p>第23回：第11チーム「建築設計製図課題④」…S造4階建て事務所ビル 軸組図 その1</p> <p>第24回：第11チーム「建築設計製図課題⑤」…S造4階建て事務所ビル 軸組図 その2</p> <p>第25回：第12チーム「建築設計製図課題①」…S造4階建て事務所ビル 架構詳細図 その1</p> <p>第26回：第12チーム「建築設計製図課題②」…S造4階建て事務所ビル 架構詳細図 その2</p> <p>第27回：第12チーム「建築設計製図課題③」…S造4階建て事務所ビル 架構詳細図 その3</p> <p>第28回：第13チーム「建築設計製図課題①」…S造4階建て事務所ビル 矩計図詳細図 その1</p> <p>第29回：第13チーム「建築設計製図課題②」…S造4階建て事務所ビル 矩計図詳細図 その2</p> <p>第30回：春期チーム「建築設計製図課題演習②」…春期課題：公共建築物（S造）</p> <p>第31回：後期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」</p> <p>第32回：後期製図試験、課題提出、後期試験・全体講評</p> <p>■教科書 なし（プリント配布）</p> <p>■参考文献 建築構法（市ヶ谷出版）、必携 建築資料（ビジュアルハンドブック）（実教出版）</p> <p>■到達目標 建築設計施工における鉄筋コンクリート造、鉄骨造の設計製図能力を身につける。</p> <p>■試験方法 定期試験（実技）を行う。</p> <p>■成績評価基準 定期製図試験60%、通常課題（夏・冬課題含）25%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期・後期とも、出席率が80%未満の者は原則として定期試験の受験資格が無い。</li> <li>・病欠や忌引きのとき、または不慮の事故等の際は必ずすみやかに担当者まで連絡し、指示を受けて下さい。</li> </ul>				

科目名： CAD設計製図Ⅱ

【実習】

英文名： Computer Aided Design Ⅱ

担当者： 鳥居久晃

本科目は、CAD及びCGデザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 専門 必修

単位数： 2単位

#### ■授業概要

近年、建築業界でもあらゆる分野で、コンピュータ化が進んできており設計関係においても一般的な製図道具となって来ているのが現状である。本科目では、CADによる設計製図を通して、基本練習を中心として基本的な建築図面の作成までを課題を通して学んでもらう。CADの基本操作については1年次後期のCAD設計製図Ⅰにおいて習得済みより、応用も兼ねた使用法についても学ぶ。JW-CADを中心に実習を進める。

第1回：第1課題 …CADの基本操作の復習、およびJW-CAD操作について学ぶ。

第2回：第2課題-1…事務所ビル的一般図の作成1 平面図の作成

第3回：第2課題-2…事務所ビル的一般図の作成2 断面図および立面図の作成

第4回：第2課題-3…事務所ビル的一般図の作成3 その他図面の作成

第5回：第3課題 …日影図の作成 第2課題で作成した図面を使用した演習課題

第6回：第4課題-1…構造図の作成練習1 RC構造について1 伏図、軸組み図

第7回：第4課題-2…構造図の作成練習2 RC構造について2 配筋図

第8回：第4課題-3…構造図の作成練習3 RC構造について3 架構詳細図

第9回：第5課題-1…構造図の作成練習1 S造について1 伏図、軸組み図

第10回：第5課題-2…構造図の作成練習2 S造について2 架構詳細図

第11回：第5課題-3…構造図の作成練習3 S造について3 伏図、軸組み図

第12回：第6課題 …第2課題を利用したパースの作成

第13回：第7課題-1 …パースおよび平面図等への着色技法

第14回：第7課題-2 …パースおよび平面図等への着色技法

第15回：第8課題-1 …他のCADへの変換等について

第16回：習熟度テスト 総まとめとして、課題を時間内での完成を目指す。

#### ■教科書

プリントによる。

#### ■参考文献

特になし。

#### ■到達目標

実務で必須技術であるCADを使った設計製図を身に付ける。

#### ■試験方法

授業時間内でのCAD製図試験

#### ■成績評価基準

CAD製図試験60%、通常課題25%、受講姿勢15%を原則とする。

#### ■受講生へのメッセージ

今日、CADが使えることは建築業界では必修条件です。JWCADの操作修得から設計製図までができるようになるためには、毎回の授業時間内での理解をめざし、授業時間外での自習をすることが大切です。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

科目名： 設計実習Ⅱ		【実習】	
英文名： Design Exercise II			
担当者：	吉田裕彦、桑田浩光		
	本科目は、建築意匠設計への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。		
開講年次： 2年次	開講期： 前期	科目区分： 専門 必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各課程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく課程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。設計製図Ⅱを補完する内容であり、特別講義による実務の理解も含む。</p> <p>第 1 回： オフィスビル課題研究とプレゼンテクニック1</p> <p>第 2 回： オフィスビル課題研究とプレゼンテクニック2</p> <p>第 3 回： オフィスビル課題研究とプレゼンテクニック3</p> <p>第 4 回： オフィスビル課題研究とプレゼンテクニック4</p> <p>第 5 回： オフィスビル課題研究とプレゼンテクニック5</p> <p>第 6 回： オフィスビル課題研究とプレゼンテクニック6</p> <p>第 7 回： オフィスビル 作品講評会</p> <p>第 8 回： 天満橋の集合住宅課題研究とプレゼンテクニック8</p> <p>第 9 回： 天満橋の集合住宅課題研究とプレゼンテクニック9</p> <p>第 10 回： 天満橋の集合住宅課題研究とプレゼンテクニック10</p> <p>第 11 回： 天満橋の集合住宅課題研究とプレゼンテクニック11</p> <p>第 12 回： 天満橋の集合住宅課題研究とプレゼンテクニック12</p> <p>第 13 回： 天満橋の集合住宅課題研究とプレゼンテクニック13</p> <p>第 14 回： 天満橋の集合住宅課題研究とプレゼンテクニック14</p> <p>第 15 回： 集合住宅論</p> <p>第 16 回： 総括、ふりかえり</p> <p>■教科書 初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）</p> <p>■参考文献 建築設計資料集成（丸善）</p> <p>■到達目標 建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。</p> <p>■試験方法 試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 課題60%、エスキスのまとめ15%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 公共建築物の計画を通して建築の成り立ちを理解すると共に、図面や模型を通じて人に伝えることの大切さを知ってほしい。また、作品として完成できた時の喜びを是非味わってもらいたい。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名：卒業制作（PDP パーソナル デザイン プログラム）		【実習】													
英文名：Graduation Design and Drawing															
担当者：	伊藤孝、片岡慎策、岸上純子、木村貞基、河内尚子、吉井歳晴、吉田裕彦														
	本科目は、建築計画・建築構造設計・建築意匠設計への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。														
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門	必修 単位数： 2単位												
<p>■授業概要</p> <p>建築設計学科では、卒業制作をPDP（パーソナルデザインプログラム）として実施している。建築系の卒業制作では、設計課題を自ら設定し、コンセプトを立て、課題解決・提案・プレゼンをすることが一般的であるが、PDPでは自分の過去・現在・未来をデザインすることを主要な目的としている。つまり「課題のための課題」ではなく、自身のこれまでの学びやキャリアをふりかえり、現在の建築の学びを踏まえて将来のキャリアイメージを設定し、課題を設定し取り組むこととなる。そこでPDP（卒業制作）では、以下の点を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業制作のための卒業制作ではなく、自分の過去・現在・未来をデザインすること</li> <li>「社会（業界）が求める力」と「自分自身の適性とキャリアイメージ」とを自身で位置づけを目指すこと</li> <li>自分で課題を設定し、自分でスケジュール管理をし、自分で制作をおこなうこと</li> </ul> <p>①指導スケジュール 後期（17回）毎週180分の講師によるエスキスチェックと制作指導（出席確認を行う）</p> <p>②主要課題スケジュール</p> <table border="0"> <tr> <td>8月第1週</td> <td>夏期課題発表、夏期セミナー、PDP担当講師による指導体制の開始</td> </tr> <tr> <td>9月第4週</td> <td>夏期課題提出・夏期成果発表（パワーポイント、3分/人）</td> </tr> <tr> <td>11月第1週</td> <td>中間提出・中間発表（パワーポイント、5分/人）</td> </tr> <tr> <td>12月第3週</td> <td>一次提出（制作物最終提出）、プレゼン作業準備</td> </tr> <tr> <td>1月第2週</td> <td>二次提出（パワーポイントデータおよび梗概の提出）、公開審査会（パワーポイント、15分/人）</td> </tr> <tr> <td>2月第1週</td> <td>振り返り</td> </tr> </table> <p>③PDPテーマ・制作・研究領域例 建築計画設計、ランドスケープデザイン、まちづくり、コミュニティデザイン、商品企画開発、研究・論文、その他</p> <p>④PDP制作物フォーマット 研究・制作等 成果物 本紙には表紙を付けタイトル、学科、年、番号、氏名を記入。提出物は、左綴じとすること。 注1）提出物は図面、プレゼンボード、研究論文など紙のみとします。模型その他は提出しない。 注2）半年をかけた制作物であることを自覚し、それ相応の研究制作とすようしっかりと制作すること。 注3）提出物規定——A2本紙10枚以上 + A2表紙1枚 注4）上記以外のフォーマット場合は、担当講師の指示に従いまとめてください。但、注3）のヴォリュームが基準になります。 注5）プレゼン発表用のパワーポイントファイル・梗概等は、二次提出物となります。</p> <p>⑤成績評価の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成績評価は「成績評価の基準」にもとづいておこなうが、ただし、以下の点を重視する。</li> <li>PDPは、制作プロセスの評価を重視する。最終提出物だけを提出しても評価対象とはしない。</li> <li>未提出、著しい未完成、粗雑作品は、いかなる理由でも「不合格」とする。</li> <li>期日に提出できた成果物等であっても、それが規定に従っていない場合や最終的に学校長によって不可と判断された場合、その作品は「不合格」とする。</li> </ul> <p>■教科書 なし</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■到達目標 企画を立て、コンセプトを練り、提案にまとめ、またそれを長期間のプロジェクトとして管理し、プレゼンテーションする</p> <p>■試験方法 試験は実施しない</p> <p>■成績評価基準 制作物50%、制作プロセス25%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 卒業制作の指導においては、担当教員の助言・指導を確実に受けることは言うまでもなく、いろいろな約束事等もあるので、ガイダンスでの諸注意等については十分注意すること。</p>				8月第1週	夏期課題発表、夏期セミナー、PDP担当講師による指導体制の開始	9月第4週	夏期課題提出・夏期成果発表（パワーポイント、3分/人）	11月第1週	中間提出・中間発表（パワーポイント、5分/人）	12月第3週	一次提出（制作物最終提出）、プレゼン作業準備	1月第2週	二次提出（パワーポイントデータおよび梗概の提出）、公開審査会（パワーポイント、15分/人）	2月第1週	振り返り
8月第1週	夏期課題発表、夏期セミナー、PDP担当講師による指導体制の開始														
9月第4週	夏期課題提出・夏期成果発表（パワーポイント、3分/人）														
11月第1週	中間提出・中間発表（パワーポイント、5分/人）														
12月第3週	一次提出（制作物最終提出）、プレゼン作業準備														
1月第2週	二次提出（パワーポイントデータおよび梗概の提出）、公開審査会（パワーポイント、15分/人）														
2月第1週	振り返り														

科目名： 意匠設計Ⅰ

【実習】

英文名： Course in Architectural DesignⅠ

担当者： 木村貞基、吉田裕彦

本科目は、建築設計及び経営への造詣が深く建築設計実務及び建設業経営を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 専門 選択必修

単位数： 2単位

## ■授業概要

課題(住宅・公共建築)について、現地調査から、模型・プレゼンテーション・発表までの一連の流れを実務に対応させながらまとめて行きます。途中に関連作品の見学・レクチャーも取り入れ、リアリティーのある授業を行います。

第1回： 第1課題「建築と会計」…課題説明・分析

第2回： 第1課題「建築と会計」…エスキース・個別面談①

第3回： 第1課題「建築と会計」…見学会(受講者全員で1日かけて実作品見学)

第4回： 第1課題「建築と会計」…エスキース・個別面談②

第5回： 第1課題「建築と会計」…エスキース・個別面談③

第6回： 第1課題「建築と会計」…ボリューム模型提出・個別面談

第7回： 第1課題「建築と会計」…模型提出・個人面談

第8回： 第1課題「建築と会計」…プレゼンテーション図面作成・指導

第9回： 第1課題「建築と会計」…発表会・講評会①

第10回： 第2課題「集住リフォーム実践課題」…課題説明・分析

第11回： 第2課題「集住リフォーム実践課題」…敷地調査(サーヴェイ)・資料整理②

第12回： 第2課題「集住リフォーム実践課題」…見学会(特別講義)

第13回： 第2課題「集住リフォーム実践課題」…エスキース・個別面談①

第14回： 第2課題「集住リフォーム実践課題」…エスキース・個別面談③

第15回： 第2課題「集住リフォーム実践課題」…ボリューム模型提出・個別面談

第16回： 第2課題「集住リフォーム実践課題」…模型提出・個別面談・ふりかえり

## ■教科書

なし

## ■参考文献

コンパクト建築設計資料集成(丸善)、プレゼンテーションテクニック(彰国社)

## ■到達目標

建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。

## ■試験方法

試験は行わない。

## ■成績評価基準

制作物50%、制作プロセス25%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。

## ■受講生へのメッセージ

実社会で設計業務についている先生(非常勤講師)方が課題を出題。設計業務に必要な発想力・構築力・表現力を実務に近い作業内容から学びます。

出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない(欠格条件)

科目名： 意匠設計Ⅱa（卒業制作）		【実習】	
英文名： Course in Architectural Design Ⅱa			
担当者：	伊藤孝、岸上純子、木村貞基、河内尚子、吉井歳晴、吉田裕彦		
	本科目は、建築意匠への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 選択必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>意匠設計特論分野の卒業制作製作を目的とする。テーマ選択、資料収集、エスキス、製図、模型作成などの作業をゼミ形式で進める。</p> <p>第 1 回： 演習1 「ワークショップ」…全体ガイダンスと作業内容の説明 * 1年生と共同作業</p> <p>第 2 回： 演習1 「ワークショップ」…現地調査・調査結果分析</p> <p>第 3 回： 演習1 「ワークショップ」…企画打合せ①</p> <p>第 4 回： 演習1 「ワークショップ」…企画打合せ②</p> <p>第 5 回： 演習1 「ワークショップ」…企画打合せ③・模型作成</p> <p>第 6 回： 演習1 「ワークショップ」…模型打合せ・プレゼン打合せ</p> <p>第 7 回： 演習1 「ワークショップ」…プレゼン打合せ①</p> <p>第 8 回： 演習1 「ワークショップ」…プレゼン打合せ②</p> <p>第 9 回： 演習1 「ワークショップ」…発表会・講評会</p> <p>第 10 回： 「卒業製作」…模型指導③</p> <p>第 11 回： 「卒業製作」…模型指導④</p> <p>第 12 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導①</p> <p>第 13 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導②</p> <p>第 14 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導③</p> <p>第 15 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導④</p> <p>第 16 回： 「卒業製作」…コース内発表会・講評会</p> <p>■教科書 なし</p> <p>■参考文献 コンパクト建築設計資料集成(丸善)、プレゼンテーションテクニック(彰国社)</p> <p>■到達目標 建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。</p> <p>■試験方法 試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 制作物50%、制作プロセス25%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 卒業制作を進める上で、ポイントとなる各工程の案内と、図面や模型制作上の要点を学内で実習します。この時間を有効に活用し、自宅での作業を加えて合格レベルの作品を仕上げてください。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない(欠格条件)</p>			

科目名： 意匠設計Ⅱb （卒業制作）		【実習】	
英文名： Course in Architectural Design Ⅱb			
担当者：	伊藤孝、岸上純子、木村貞基、河内尚子、吉井歳晴、吉田裕彦		
	本科目は、建築意匠への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 選択必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>意匠設計特論分野の卒業制作製作を目的とする。テーマ選択、資料収集、エスキス、製図、模型作成などの作業をゼミ形式で進める。</p> <p>第 1 回： 「卒業製作」…エスキス指導①</p> <p>第 2 回： 「卒業製作」…エスキス指導②</p> <p>第 3 回： 「卒業製作」…エスキス指導③</p> <p>第 4 回： 「卒業製作」…エスキス指導④</p> <p>第 5 回： 「卒業製作」…エスキス指導⑤</p> <p>第 6 回： 「卒業製作」…エスキス指導⑥</p> <p>第 7 回： 「卒業製作」…模型指導①</p> <p>第 8 回： 「卒業製作」…模型指導②</p> <p>第 9 回： 「卒業製作」…模型指導③</p> <p>第 10 回： 「卒業製作」…模型指導④</p> <p>第 11 回： 「卒業製作」…模型指導⑤</p> <p>第 12 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導①</p> <p>第 13 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導②</p> <p>第 14 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導③</p> <p>第 15 回： 「卒業製作」…プレゼンテーション指導④</p> <p>第 16 回： 「卒業製作」…コース内発表会・講評会・ふりかえり</p> <p>■教科書 なし</p> <p>■参考文献 コンパクト建築設計資料集成(丸善)、プレゼンテーションテクニック(彰国社)</p> <p>■到達目標 建築実務等において必要な建築設計、デザイン思考、企画、提案能力を身につけます。</p> <p>■試験方法 試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 制作物50%、制作プロセス25%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 卒業制作を進める上で、ポイントとなる各工程の案内と、図面や模型制作上の要点を学内で実習します。この時間を有効に活用し、自宅での作業を加えて合格レベルの作品を仕上げてください。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない(欠格条件)</p>			



科目名： 構造設計Ⅰ		【実習】	
英文名： Course in Structural DesignⅠ			
担当者：	片岡慎策 本科目は、建築構造への造詣が深く建築構造設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 前期	科目区分： 専門 選択必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>材料実験とは違った面から、構造物の強度等について焦点をあて実証し、実験を通じて理解を深めてもらうことを目標とする。また、各自でフレームだけを自作しフレーム強度と実際自分達で解析した計算結果との比較を行い、力と部材の使われ方、構造デザインについて学んでもらう。また、構造専攻コース最終科目より現代の建築から見るデザイン、耐震設計法を学ぶ。</p> <p>第1回： 初回ガイダンス…授業の位置づけ、評価方法</p> <p>第2回： 良いコン・悪いコンについて…施工不良等によるコンクリート強度の比較、打設、試験等</p> <p>第3回： 木質造はりの構造実験…材種の違い、集成材等の強度比較実験</p> <p>第4回： 鉄骨トラスはりの構造実験…計算値と実験値の比較検証</p> <p>第5回： 格子はりの実験…格子はりの実験による計算値との比較、床版の原理説明</p> <p>第6回： 第2回に打設したコンクリートの強度試験…テストピースの強度および鉄筋コンクリートはり</p> <p>第7回： 現代建築に見る構造デザイン1…意匠と構造の融合について考える</p> <p>第8回： 現代建築に見る構造デザイン2…意匠と構造の融合について考える</p> <p>第9回： 耐震設計法1…過去の震災等から学ぶ①</p> <p>第10回： 耐震設計法2…過去の震災等から学ぶ②</p> <p>第11回： 耐震設計法3…現代建築から学ぶ①</p> <p>第12回： 耐震設計法4…現代建築から学ぶ②</p> <p>第13回： 構造デザイン0…紙により模型実験</p> <p>第14回： 構造デザイン1…紙により模型実験</p> <p>第15回： 構造デザイン2…自分でデザインしたフレーム作成1</p> <p>第16回： 構造デザイン3…自分でデザインしたフレーム作成2、ふりかえり</p> <p>■教科書 プリント</p> <p>■参考文献 空間 構造 物語(彰国社) 広さ・長さ・高さの構造デザイン(建築技術)</p> <p>■到達目標 建築設計実務に必要な建築計画と密接に関わる構造知識を身に付けます。</p> <p>■試験方法 定期試験はおこなわない。</p> <p>■成績評価基準 レポート60%、作品40%</p> <p>■受講生へのメッセージ 意匠、構造、施工の融合性について学ぶと共に、模型を作ることによりフレームの優雅さ等についても学んでほしい。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない(欠格条件)</p>			

科目名： 構造設計Ⅱa(卒業制作)		【実習】	
英文名： Course in Structural DesignⅡa			
担当者：	片岡慎策		
	本科目は、建築構造への造詣が深く建築構造設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 選択必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>①自分自身で問題設定をすること。②建築の企画・計画・設計を自分で行うこと。③制作したものを提案・プレゼンテーションすることを前提とし、構造計画、構造設計、構造計算といった形で構造専攻としての研究をおこなう。また講師の指導の下、構造の領域において先進的な課題に取り組むこともできる。</p> <p>第 1 回： 課題設定①…課題設定の考え方と方法、敷地選定、コンセプトの建て方等</p> <p>第 2 回： 課題設定②…課題設定の検討と批判、エスキス検討</p> <p>第 3 回： 建物の構造計画について①</p> <p>第 4 回： 建物の構造計画について②</p> <p>第 5 回： 構造部材断面の仮定断面算定</p> <p>第 6 回： 構造計算書作成①…作成方法の指導</p> <p>第 7 回： 構造計算書作成②</p> <p>第 8 回： 構造計算書作成③</p> <p>第 9 回： 構造計算書作成④</p> <p>第 10 回： 一般図の作図①</p> <p>第 11 回： 一般図の作図②</p> <p>第 12 回： 一般図の作図③、模型製作</p> <p>第 13 回： 構造詳細図の作図①…作成方法の指導</p> <p>第 14 回： 構造詳細図の作図②</p> <p>第 15 回： 構造詳細図の作図③</p> <p>第 16 回： 構造詳細図の作図④、ふりかえり</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■到達目標 建築設計実務に必要な建築計画と密接に関わる構造知識を身に付けます。</p> <p>■試験方法 定期試験はおこなわない。</p> <p>■成績評価基準 制作物50%、制作プロセス25%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名： 構造設計Ⅱb(卒業制作)		【実習】	
英文名： Course in Structural Design Ⅱb			
担当者：	片岡慎策		
	本科目は、建築構造への造詣が深く建築構造設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 選択必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>①自分自身で問題設定をすること。②建築の企画・計画・設計を自分で行うこと。③制作したものを提案・プレゼンテーションすることを前提とし、構造計画、構造設計、構造計算といった形で構造専攻としての研究をおこなう。また講師の指導の下、構造の領域において先進的な課題に取り組むこともできる。</p> <p>第 1 回： 課題設定①…課題設定の考え方と方法、敷地選定、コンセプトの建て方等</p> <p>第 2 回： 課題設定②…課題設定の検討と批判、エスキス検討</p> <p>第 3 回： 建物の構造計画について①</p> <p>第 4 回： 建物の構造計画について②</p> <p>第 5 回： 構造部材断面の仮定断面算定</p> <p>第 6 回： 構造計算書作成①…作成方法の指導</p> <p>第 7 回： 構造計算書作成②</p> <p>第 8 回： 構造計算書作成③</p> <p>第 9 回： 構造計算書作成④</p> <p>第 10 回： 一般図の作図①</p> <p>第 11 回： 一般図の作図②</p> <p>第 12 回： 一般図の作図③、模型製作</p> <p>第 13 回： 構造詳細図の作図①…作成方法の指導</p> <p>第 14 回： 構造詳細図の作図②</p> <p>第 15 回： 構造詳細図の作図③</p> <p>第 16 回： 構造詳細図の作図④、ふりかえり</p> <p>■教科書 特になし。</p> <p>■参考文献 特になし。</p> <p>■到達目標 建築設計実務に必要な建築計画と密接に関わる構造知識を身に付けます。</p> <p>■試験方法 定期試験はおこなわない。</p> <p>■成績評価基準 制作物50%、制作プロセス25%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名： CAD設計製図Ⅲ		【実習】	
英文名： Computer Aided Design III			
担当者：	鳥居久晃		
	本科目は、BIMおよび建築CADへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 選択	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）は、建築生産のあり方を大きく変えるものといえ、建築業界においてその普及が進んでいる。設計から施工・維持までの情報を一貫して管理でき、ビジュアルを使って誰にでもわかりやすく情報を共有できるツールです。ARCHICAD BIMを通じてBIMの思想と操作方法を理解することを目的とする。特に3D表現ツールとしての活用を中心にその操作方法を修得することを目的とする。</p> <p>第 1 回： BIM基礎1…BIMの思想と基本操作</p> <p>第 2 回： BIM基礎2…ARCHICAD BIMの基礎を学ぶ①</p> <p>第 3 回： BIM基礎3…ARCHICAD BIMの基礎を学ぶ②</p> <p>第 4 回： 3次元CAD応用1…光源設定、レンダリング手法等の応用操作</p> <p>第 5 回： 3次元CAD応用2</p> <p>第 6 回： 3次元CADデザイン1…家具、照明器具などの作成演習</p> <p>第 7 回： 3次元CADデザイン2…建築物の柱、梁、開口部など各パーツ毎の基本的な作成演習</p> <p>第 8 回： 2次元CADから3次元CADへの活用…2次元CADと3次元CADの基本操作等について</p> <p>第 9 回： 2次元CADから3次元CADへの基礎…RC建築物を想定し、与条件により2次元的図面の作図①</p> <p>第 10 回： 2次元CADから3次元CADへの基礎…RC建築物を想定し、与条件により2次元的図面の作図②</p> <p>第 11 回： 2次元CADから3次元CADへの応用…建築物の階高、天井高、開口高等の設定により3次元CADで立体化①</p> <p>第 12 回： 2次元CADから3次元CADへの応用…建築物の階高、天井高、開口高等の設定により3次元CADで立体化②</p> <p>第 13 回： 2次元CADから3次元CADへの活用…CADにより2次元、3次元化しプレゼンテーションをおこなう</p> <p>第 14 回： 2次元CADから3次元CADへの活用…学生作品のプレゼンテーション、およびCAD・BIMソフトの活用事例紹介</p> <p>第 15 回： CAD演習の総仕上げ課題①…住宅や小規模な公共建築物の設計製図課題</p> <p>第 16 回： CAD演習の総仕上げ課題②…住宅や小規模な公共建築物の設計製図課題、ふりかえり</p> <p>■教科書 配布プリント</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■到達目標 実務で必須技術であるCADを使った設計製図を身に付ける。</p> <p>■試験方法 定期試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 制作物50%、制作プロセス25%、レポート10%、受講姿勢15%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名： 建築計画Ⅲ（環境デザイン）		【講義】		
英文名： Architectural Planning III				
担当者：	松下岳生			
	本科目は、ランドスケープデザインへの造詣が深くその実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。			
開講年次：	2年次	開講期：	後期	科目区分： 専門 選択 単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築の計画・設計に深く関係しているランドスケープデザインの概要を学びます。前半では主なランドスケープデザインの歴史や設計プロセスに関して、中盤から後半へかけては、卒業制作などの計画・設計に活かしやすいよう、ランドスケープデザインを構成する要素やテーマごとの講義となります。また座学だけでなく学校周辺見学も行い、実際のまちを構成する要素や状況を体感できる講義となります。</p> <p>第 1 回：ランドスケープデザインとは（ガイダンス）</p> <p>第 2 回：日本庭園史</p> <p>第 3 回：西洋庭園史、ランドスケープデザイン近代史</p> <p>第 4 回：ランドスケープデザインの設計プロセス、ランドスケープデザインの素材-舗装</p> <p>第 5 回：アクティビティとプログラムについて</p> <p>第 6 回：ランドスケープデザインの素材-石</p> <p>第 7 回：ランドスケープデザインの素材-再生</p> <p>第 8 回：ランドスケープデザインの素材-植物その①</p> <p>第 9 回：ランドスケープデザインの素材-植物その②</p> <p>第 10 回：ランドスケープデザインの素材-色彩</p> <p>第 11 回：ランドスケープデザインの素材-道</p> <p>第 12 回：ランドスケープデザインの素材-ストリートファニチャー</p> <p>第 13 回：ランドスケープデザインの素材-芸術</p> <p>第 14 回：ランドスケープデザインの素材-柵壁</p> <p>第 15 回：ランドスケープデザインの素材-森林</p> <p>第 16 回：全講義ふりかえり</p> <p>■教科書 特になし</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■到達目標 ランドスケープデザインの概要を知り、建築計画・設計時に活かせる能力を身につけること。</p> <p>■試験方法 定期試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 出席日数と、講義ごとのレポート提出にて評価</p> <p>■受講生へのメッセージ 敷地に対する建築配置から外構に至るまで、ランドスケープデザインは、建築計画・設計において深く関係しているデザイン領域です。また地域や自然環境を踏まえた空間づくりは、とても重要なものとなってきています。是非ともこの講義を受講して、計画・設計者としての知見を広げましょう。</p>				

科目名： 建築構造学		【講義】		
英文名： Structural Design				
担当者：	大塚悦子			
	本科目は、建築構造設計への造詣が深く構造設計の実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。			
開講年次：	2年次	開講期：	前期	科目区分： 専門 選択 単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>木質構造、鉄筋コンクリート構造についての、部材設計法にまで掘り下げて構造技術者の基本となる考え方等について学び、簡単な建物の構造計算書の作成もおこなうものとする。</p> <p>第 1 回： 初回ガイダンス…授業の位置づけ、評価方法等、鉄筋コンクリート構造概説</p> <p>第 2 回： 鉄筋コンクリート部材の設計について1…柱、梁等の設計法について</p> <p>第 3 回： 鉄筋コンクリート部材の設計について2…床、壁の設計法について</p> <p>第 4 回： 鉄筋コンクリート部材の設計について3…上記以外部材の設計法について</p> <p>第 5 回： 鉄筋コンクリートの耐震設計について1…鉄筋コンクリートの耐震設計法について学ぶ</p> <p>第 6 回： 鉄筋コンクリートの耐震設計について2…鉄筋コンクリートの耐震設計法について学ぶ</p> <p>第 7 回： 木造・構造計算書作成1…木質構造系の耐震・耐風設計</p> <p>第 8 回： 木造・構造計算書作成2…木質構造系の部材設計1</p> <p>第 9 回： 木造・構造計算書作成3…木質構造系の部材設計2</p> <p>第 10 回： 木造・構造計算書作成4…木質構造系の部材設計3</p> <p>第 11 回： 鉄筋コンクリート造・構造計算書作成1…荷重、剛性の計算について</p> <p>第 12 回： 鉄筋コンクリート造・構造計算書作成2…建物重量の算出について</p> <p>第 13 回： 鉄筋コンクリート造・構造計算書作成3…応力算定および応力図作成</p> <p>第 14 回： 鉄筋コンクリート造・構造計算書作成4…柱梁の断面設計</p> <p>第 15 回： 鉄筋コンクリート造・構造計算書作成5…床、壁、基礎の断面設計</p> <p>第 16 回： 鉄筋コンクリート造・構造計算書作成6…二次設計について、ふりかえり</p> <p>■教科書 なし（プリント配布）</p> <p>■参考文献 鉄筋コンクリート構造計算基準・同解説(日本建築学会) 鉄筋コンクリートの構造設計(鹿島出版会)</p> <p>■到達目標 構造設計実務の基本を知り、簡単なモデルで計算書能力を身に付ける。</p> <p>■試験方法 定期試験はおこなわない</p> <p>■成績評価基準 定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 毎回、電卓を持参すること。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>				

科目名： 建築士試験講座Ⅰ

【講義】

英文名： Exercise on Registered ArchitectⅠ

担当者： 岸本憲一

本科目は、建築設計実務を長年経験し、また建築士資格試験受験指導経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 専門 選択

単位数： 2単位

## ■授業概要

この講義では、一年次に学んできた建築計画・建築法規分野について、2級建築士資格試験（学科）で過去に出題された問題解説と演習をとおして復習を行い、その学びを確実なものとし試験に対応できる力を身につけることを目的とする。

- 第 1 回： 建築計画1…住宅・集合住宅
- 第 2 回： 建築計画2…公共建築・商業建築
- 第 3 回： 建築計画3…建築計画・各部計画
- 第 4 回： 建築計画4…建築史
- 第 5 回： 建築計画5…環境（換気・熱）
- 第 6 回： 建築計画6…環境（音・光）
- 第 7 回： 建築計画7…設備（空調・給排水・電気）
- 第 8 回： 建築計画8…建築計画まとめ
- 第 9 回： 建築法規1…用語の定義
- 第 10 回： 建築法規2…面積・高さ算定、諸手続き、適用
- 第 11 回： 建築法規3…一般構造、建築設備、構造
- 第 12 回： 建築法規4…防火規定、避難規定
- 第 13 回： 建築法規5…道路及び壁面線
- 第 14 回： 建築法規6…用途地域
- 第 15 回： 建築法規7…規模の規制（容積率、建ぺい率、高さ制限）
- 第 16 回： 期末試験、建築計画・建築法規のまとめ

## ■教科書

ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳（エクスナレッジ）

## ■参考文献

2級建築士試験問題（東洋書店）

## ■到達目標

2級建築士学科試験（学科Ⅰ、Ⅱ）に合格できる学力を身に付けます。

## ■試験方法

定期試験を行う。

## ■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

## ■受講生へのメッセージ

これまでに学んだことの総まとめという気持ちで講義に臨んで下さい。  
出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

科目名： 建築士試験講座Ⅱ		【講義】	
英文名： Exercise on Registered Architect Ⅱ			
担当者：	宗林功		
	本科目は、建築構造設計実務を長年経験し、また建築士資格試験受験指導経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 選択	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>この講義では、一年次に学んできた建築構造・建築施工分野について、2級建築士資格試験（学科）で過去に出題された問題解説と演習をとおして復習を行い、その学びを確実なものとし試験に対応できる力を身につけることを目的とする。</p> <p>第 1 回： 建築構造1…構造力学①（静定構造、トラス）</p> <p>第 2 回： 建築構造2…構造力学②（断面性能、応力度、座屈、その他）</p> <p>第 3 回： 建築構造3…構造計画</p> <p>第 4 回： 建築構造4…木構造</p> <p>第 5 回： 建築構造5…鉄筋コンクリート造</p> <p>第 6 回： 建築構造6…鉄骨造</p> <p>第 7 回： 建築構造7…地盤と基礎</p> <p>第 8 回： 建築構造8…その他構造とまとめ、中間試験</p> <p>第 9 回： 建築施工1…請負契約、施工計画、現場管理</p> <p>第 10 回： 建築施工2…測量・地盤調査、仮設工事、土工事、基礎・地業工事</p> <p>第 11 回： 建築施工3…鉄筋工事、型枠工事</p> <p>第 12 回： 建築施工4…コンクリート工事、補強コンクリートブロック工事</p> <p>第 13 回： 建築施工5…鉄骨工事</p> <p>第 14 回： 建築施工6…木工事</p> <p>第 15 回： 建築施工7…その他工事①（防水、屋根、左官、タイル、張石、ガラス、建具）</p> <p>第 16 回： 期末試験、建築構造・建築施工のまとめ</p> <p>■教科書 ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳（エクスナレッジ）</p> <p>■参考文献 2級建築士試験問題（東洋書店）</p> <p>■到達目標 2級建築士学科試験（学科Ⅲ、Ⅳ）に合格できる学力を身に付けます。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ これまでに学んだことの総まとめという気持ちで講義に臨んで下さい。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			



科目名： 建築環境工学

【講義】

英文名： Architectural Environment Engineering

担当者： 佐々木一恵

本科目は、建築環境工学への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や「地球の存続」という命題になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の1/3が建築関連業であるともいわれ、その削減に対して我々が果たす役割は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものであると考えている。

第 1 回：日照・日射環境1…太陽の運行・位置、日照の確保、日影曲線を用いた日照条件

第 2 回：日照・日射環境2…日射、直達日射と天空日射、方位による日射特性、日射の調節

第 3 回：光環境1…測光量、照明計算の基礎、明視条件・グレアとは、照度の基準について

第 4 回：光環境2…全天空照度と昼光率、採光計画、照明計画と照明計算

第 5 回：色彩環境1…色の属性、各表色系の紹介、色の対比

第 6 回：色彩環境2…色彩の効果と色彩計画

第 7 回：空気環境1…換気目的、汚染物質の許容濃度と必要換気量、シックハウス対策について

第 8 回：空気環境2…自然換気の力学、機械換気方式の種類と換気計画、8回までのまとめ・中間試験

第 9 回：熱環境1…熱貫流の概念、熱伝導と熱伝達、中空層の効果、熱貫流率と日射

第 10 回：熱環境2…建築全体の熱特性、住宅の省エネルギー基準

第 11 回：湿気環境1…湿度の表し方、湿り空気と露点温度、空気線図の利用方法

第 12 回：湿気環境2…結露現象とは、表面結露とその防止対策、内部結露とその防止対策

第 13 回：温熱環境1…温熱環境の6要素と環境温度

第 14 回：温熱環境2…快適さの条件、温熱環境指標について

第 15 回：音環境…音の性質、周波数、騒音レベル、騒音評価と遮音効果、室内音響計画

第 16 回：定期試験・9回から15回のまとめ・全講義の振り返り

### ■教科書

初学者の建築講座 建築環境工学（市ヶ谷出版社）

### ■参考文献

特になし

### ■到達目標

光、熱、空気、音など、建築環境に関する考え方と基本的な知識を身につけることをめざす。

### ■試験方法

定期試験を行う。

### ■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する

### ■受講生へのメッセージ

ヒートアイランドや地球温暖化対策としての建築のあり方にも関心がもたれており、建築においても環境分野はますます重要な領域となっています。建築計画を行う上でいかに環境工学が生かされているかを理解していきましょう。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

科目名： 建築設備		【講義】	
英文名： Building Equipment			
担当者：	岸本憲一		
	本科目は、建築設備への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>人間の生活に不可欠な空気、水、電気について学ぶ。主として木造住宅やマンション等の集合住宅や事務所ビルを対象として、快適な居住環境を創造するための諸設備（空気調和設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等）について学習する。また、建築設計と設備計画との関連についても言及する。</p> <p>第 1 回： 建築設備の概要…自然環境と人工環境、建築計画と設備計画について</p> <p>第 2 回： 空気調和設備の概要…空気の性質、空気調和と室内環境、空気調和の目的について</p> <p>第 3 回： 空調負荷の考え方…空気線図の使い方、冷房負荷、暖房負荷について</p> <p>第 4 回： 空気調和設備の方式…熱源方式ならびに空調方式の種類と特徴について</p> <p>第 5 回： 空気調和設備の計画…空調設備の計画と考え方、設備設計の参考資料と設備設計図面について</p> <p>第 6 回： 熱搬送設備と機器部材…ダクト・室内ユニット、吹出口・吸込口等について</p> <p>第 7 回： 換気・排煙設備…換気・排煙設備の目的、必要換気量と換気回数、換気方法について</p> <p>第 8 回： 中間試験・8回までのまとめ、ならびに給排水・衛生設備の概要…給排水・衛生設備の役割と構成について</p> <p>第 9 回： 給水・給湯設備1…給水方式、使用水量と給水圧力、給湯方式、配管材料について</p> <p>第 10 回： 給水・給湯設備2…給水方式、使用水量と給水圧力、給湯方式、配管材料について</p> <p>第 11 回： 排水・通気設備1…排水・通気設備の目的、排水配管、トラップ、雨水排水、配管材料について</p> <p>第 12 回： 排水・通気設備2…排水・通気設備の目的、排水配管、トラップ、雨水排水、配管材料について</p> <p>第 13 回： 排水処理設備・衛生器具…浄化槽、雨水・排水再利用、衛生器具の概要、給水器具・設備ユニットのついて</p> <p>第 14 回： 消火設備…消火設備の概要、屋内・屋外消火栓、スプリンクラ設備等について</p> <p>第 15 回： 電気設備…電気設備の役割と構成、受変電・幹線設備、照明・コンセント設備等について</p> <p>第 16 回： 定期試験・全講義の振り返り</p> <p>■教科書 初学者の建築講座 建築設備（初版第2刷）（市ヶ谷出版） プリント</p> <p>■参考文献 空気調和設備の実務の知識（オーム社） 給排水・衛生設備の実務の知識（オーム社）</p> <p>■到達目標 空気調和、給排水、電気など設備分野に関する考え方と基本的な知識を身につけることをめざす。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 天井裏や壁の中あるいは床下に隠れてしまう建築設備は、現代生活においては不可欠な存在となっている。建築設備の役割を理解し、最新設備にも関心を持ち続ける姿勢が大切です。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名： 建築材料学 I

【講義】

英文名： Building Materials I

担当者： 松本司

本科目は、建築材料への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

この科目は、まず前半に日本の代表的・伝統的建築材料である木材について学び、後半に現代建築における主要な建築材料であるコンクリートについて学ぶ。この二つを学ぶことにより建築材料による建築の歴史及び可能性を学ぶ。

第 1 回： JIS・JAS等の国家規格と建築材料…建築材料のガイダンスとして種々にの材料から規格について学ぶ

第 2 回： 建築材料概説（建築材料の歴史）…人類が最初に手にした材料は自然材料、道具の発明、加工の技術等

第 3 回： 木材の概説…林業白書から現代の木材事情等を学ぶ

第 4 回： 木材の種類及び分類、性質…主な樹種から木材の特徴を学ぶ

第 5 回： 木材（製材品）…柱や梁材の形状や寸法等を学ぶ

第 6 回： 木材とその加工品…木材の加工品について学ぶ。同時に木材接着剤の有害性の有無についても理解する

第 7 回： 塗料、仕上げ材料…木部の保護、仕上げ材としての塗料について学ぶ

第 8 回： 石灰・石膏製品…石灰・石膏製品には左官材料や工場製品等、建材は多くあり、そのいくつかを学ぶ

第 9 回： 中間試験・木材を中心に8回までのまとめ

第 10 回： セメント（歴史・種類）…各種セメントの特徴について

第 11 回： セメント（性質等）…セメントが水と化学反応して新たな硬化体を造る事について

第 12 回： コンクリート（材料等）…コンクリートが人造石であること、基本的性質

第 13 回： コンクリート（調合・諸性質等）…良いコンクリートを作るための性質の理解

第 14 回： コンクリート（強度・水セメント比）…コンクリートの強度とセメント比の関係等

第 15 回： コンクリート（調合の表し方）…コンクリートをつくる時の水・骨材等の割合を決める調合設計について学ぶ

第 16 回： 定期試験・10回から15回のまとめ・全講義の振り返り

### ■教科書

建築材料第4版（市ヶ谷出版社）

### ■参考文献

やさしい木構造の話(学芸出版社),やさしい建築材料(学芸出版社),初めての建築材料(学芸出版社),建築材料と納め方(開上書院)

### ■到達目標

各種の建築材料の種類や性質等の知識を身につけます。

### ■試験方法

定期試験を行う。

### ■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

### ■受講生へのメッセージ

この科目は2年次科目です。建築材料学 I もしくは II を必ず単位取得して下さい。

科目名： 建築材料学Ⅱ		【講義】	
英文名： Building Materials Ⅱ			
担当者：	松本司		
	本科目は、建築材料への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築材料Ⅰの続きとしてここでは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形鋼や棒鋼について学び次にアルミサッシ等その特徴を知る。次に仕上げ材を分類別にガラス、セラミックス、石材と学び、機能材料などを学んだ後、リフォームについて学び材料の使い方について考える。</p> <p>第 1 回： 金属製品…鋼材や鉄筋コンクリート用棒鋼の形やJIS記号を学ぶ</p> <p>第 2 回： 金属材料（鉄鋼）…製鉄のあらましを学ぶ</p> <p>第 3 回： 金属材料（鉄鋼）…鋼（スチール）をつくる方法を学ぶ</p> <p>第 4 回： 鋼材の性質等…鋼の強さを他の材料との比較で知る</p> <p>第 5 回： 鋼材の性質等…炭素含有量による鋼の性質の変化等</p> <p>第 6 回： 鋼以外の鉄、鋼の合金①…ステンレス・スチール等、その他の鉄の仲間について学ぶ</p> <p>第 7 回： ガラス…ガラスの歴史や板ガラスの製法・諸性質、各種ガラスについて学ぶ</p> <p>第 8 回： セラミックス…粘土を主成分とした建築用セラミックス(タイル、瓦等)について学ぶ</p> <p>第 9 回： 中間試験・金属(鉄鋼)を中心に8回までのまとめ</p> <p>第 10 回： 石材（その1）…張り材としての石材の一般的な特性について学ぶ</p> <p>第 11 回： 石材（その2）…花崗岩・大理石等主な石材について学ぶ</p> <p>第 12 回： プラスチックス、接着剤…プラスチックの長所・短所、接着剤の用途、問題点(シックハウス症候群)について学ぶ</p> <p>第 13 回： 機能材料…機能材料としての防耐火・断熱・音響材料について学ぶ</p> <p>第 14 回： インテリア材料…内装材(カーペット、畳、壁紙等)について学ぶ</p> <p>第 15 回： リフォーム…リフォームの必要性、要点について学ぶ</p> <p>第 16 回： 定期試験・10回から15回のまとめ・全講義の振り返り</p> <p>■教科書 建築材料第4版（市ヶ谷出版社）</p> <p>■参考文献 やさしい建築材料(学芸出版社)、初めての建築材料(学芸出版社)、建築材料と納め方(井上書院)</p> <p>■到達目標 各種の建築材料の種類や性質等の知識を身につけます。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ この科目は2年次科目です。建築材料学ⅠもしくはⅡを必ず単位取得して下さい。</p>			

科目名： 建築施工法Ⅱ

【講義】

英文名： Construction Method II

担当者： 北山雄士

本科目は、建築施工法への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

### ■授業概要

1年次で学んだ建築施工法Ⅰを基にして、建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く施工技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善・改良がすすみ新工法が数多く考察されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な施工知識を得ようとする姿勢を得ることを目標とする。

第1回： 建築施工の概要…建築物の企画、施工業者の選定等

第2回： 施工計画…工程管理、地盤調査(各種試験)等

第3回： 仮設工事…仮設物の種類、共通・直接仮設工事、工事用電気・給排水、工事用機械

第4回： 土工事・山留め工事…土工事の種類、山留め工法、山留めの設計、各種地盤現象

第5回： 地業工事…地業工事の種類、杭について、地盤改良工事

第6回： 鉄筋工事①…鉄筋工事について

第7回： 鉄筋工事②…配筋の方法、定着と継手等

第8回： 鉄筋工事③…鉄筋の加工と組立、配筋検査等

第9回： 中間試験(施工の概要・施工計画・仮設・土・地業・鉄筋工事のふりかえり)

第10回： 型枠工事…型枠の設計、型枠の加工と組立

第11回： コンクリート工事①…コンクリートの品質と種類①

第12回： コンクリート工事②…コンクリートの品質と種類②

第13回： コンクリート工事③…コンクリートの運搬と打込み

第14回： 鉄骨工事①…鉄骨工事の計画、工作等

第15回： 鉄骨工事②…鋼材の接合、工事現場施工、鉄骨関連工事

第16回： 定期試験(型枠・コンクリート・鉄骨工事 環境保護のふりかえり)

### ■教科書

建築施工テキスト(井上書院)

### ■参考文献

特になし。

### ■到達目標

1年次で学んだ施工法Ⅰを基にして、より深く建築施工の知識を身に付ける。

### ■試験方法

定期試験を行う。

### ■成績評価基準

受講姿勢並びに定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

### ■受講生へのメッセージ

学ぶ場は学校だけでなく、日常生活の中にも建物は存在する。また建設現場もたくさんあるので、学生自身の身のまわりにも興味を持って観察してほしい。

科目名： 建築積算		【講義】	
英文名： Estimation			
担当者：	竹中智司、北山雄士、猪田紗加		
	本科目は、建築積算への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建築における積算の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から工事費等を予測する積算の技術を修得する。</p> <p>第 1 回： 積算の概要…積算の意義、種類、工事費の構成、積算方式等について</p> <p>第 2 回： 土工・地業の積算…土工の数量、地業の数量の積算について</p> <p>第 3 回： 鉄筋コンクリート造の積算①…基礎、柱、梁のコンクリート数量の積算について</p> <p>第 4 回： 鉄筋コンクリート造の積算②…床版、壁、階段、その他のコンクリート数量の積算について</p> <p>第 5 回： 鉄筋コンクリート造の積算③…上記①の鉄筋の数量の積算について①</p> <p>第 6 回： 鉄筋コンクリート造の積算④…上記①の鉄筋の数量の積算について②</p> <p>第 7 回： 鉄筋コンクリート造の積算⑤…上記①の型枠の数量の積算について</p> <p>第 8 回： 中間試験（積算概要・土工・地業・鉄筋・型枠・コンクリートのふりかえり）</p> <p>第 9 回： 鉄骨造の積算①…積算の区分と順序について</p> <p>第 10 回： 鉄骨造の積算②…鉄骨、鋼材の積算について</p> <p>第 11 回： 鉄骨造の積算③…ボルト、溶接の積算について</p> <p>第 12 回： 木造の積算①…木工事の積算について①</p> <p>第 13 回： 木造の積算②…木工事の積算について②</p> <p>第 14 回： 木造の積算③…木工事の積算について③</p> <p>第 15 回： 仕上げ工事…各仕上げ工事（屋根、左官、塗装、金属工事…）の数量について</p> <p>第 16 回： 定期試験（鉄骨造・木造・各仕上げのふりかえり）</p> <p>■教科書 初めての建築積算（学芸出版社）</p> <p>■参考文献 特になし</p> <p>■到達目標 建築積算に必要な数量、金額を算出する能力を身につけます。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 受講姿勢並びに定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 積算基準に沿って、毎回小演習を実施しつつ基本的な積算技術を学ぶので、欠席しないように。</p>			

科目名： キャリアデザイン II

【講義】

英文名： Career Design II

担当者：

クラス担任、伊藤賢一、善才雅夫

業界技術者、高等学校での教員職、採用コンサルタントの各職務経験を有する教員陣が担当する。

開講年次： 2年次

開講期： 通年

科目区分： 特別 必修

単位数： 2単位

## ■授業概要

1年次に続き就職活動対策、社会人としての基礎学力習得を目的としたトレーニングを重ねることに加え、社会人マナーや常識など働く上での基本となる考え方、知識、所作を習得。具体的には、就職対策では面接（個人、集団）、グループディスカッション、プレゼンテーション、論作文、SPIへの対応方法を学び、基礎学力では1年次の国語、数学に加え、英語、理科にまで分野を広げる。

- 第1回：就職対策①／履歴書の精度向上。作成した履歴書の添削結果をもとに改善すべき点を抽出しこれを共有する。  
 第2回：基礎学力①／英語：英単語（名詞）、数学：1次方程式、不等式、国語：同音異句1  
 第3回：就職対策②／SPI。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。  
 第4回：基礎学力②／英語：英単語（複数形）、数学：数列（虫食い算）、国語：同音異句2  
 第5回：就職対策③／エントリーシート。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。  
 第6回：基礎学力③／国語・説明的文章：指示語、数学：平方根  
 第7回：就職対策④／面接1。個人面接における対策。  
 第8回：基礎学力④／理科：理科問題の公式、社会：日本地理、資源・観光・産業  
 第9回：就職対策⑤／面接2。集団面接における対策。  
 第10回：基礎学力⑤／英語：派生語、数学：数列、国語：同音異句3  
 第11回：就職対策⑥／グループディスカッション。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。  
 第12回：基礎学力⑥／英語：動詞形の変化、数学：鶴亀算、国語：対義語1  
 第13回：就職対策⑦／プレゼンテーション。就職活動におけるあり方を学ぶ。  
 第14回：基礎学力⑦／理科：電気とエネルギー、社会：世界地理  
 第15回：就職対策⑧／論作文。基礎学力パートで培った技量を駆使した実践。  
 第16回：ビジネス基礎／ビジネスマナー①：話し言葉（対同僚、先輩、上司、取引先）  
 第17回：ビジネス基礎／ビジネスマナー②：文書作成（体内部、取引先へのビジネス文書）  
 第18回：ビジネス基礎／ビジネスマナー③：電話対応（外線、内線、社内、取引先）  
 第19回：ビジネス基礎／ビジネスマナー④：メール（フォーマット、To・Cc・Bcc、文書作成のポイント）  
 第20回：ビジネス基礎／ビジネスマナー⑤：外部訪問、同行時の所作。  
 第21回：ビジネス基礎／ビジネスマナー⑥：メモのとり方（電話、会議、商談）  
 第22回：ビジネス基礎／会社組織：部署の役割、役職。  
 第23回：ビジネス基礎／産業界の構成：各業界大手企業・シェア、旧財閥。  
 第24回：ビジネス基礎／会議、打合せ①：その意図、意味、目的、所作。  
 第25回：ビジネス基礎／会議、打合せ②：実践 i。グループディスカッション形式による実践。  
 第26回：ビジネス基礎／会議、打合せ③：実践 ii。グループディスカッション形式による実践。  
 第27回：ビジネス基礎／経理：売上、原価、粗利、利益とその内訳。算出方法。  
 第28回：ビジネス基礎／税と社会保険：各言葉の意味。  
 第29回：ビジネス基礎／企業データ：各言葉の意味。  
 第30回：ビジネス基礎／プレゼンテーション①：課された課題の要約、文書化、発表、各手法。  
 第31回：ビジネス基礎／プレゼンテーション②：実践 i。過去の自分、今の自分、未来の自分を個々人が発表。  
 第32回：ビジネス基礎／プレゼンテーション③：実践 ii。過去の自分、今の自分、未来の自分を個々人が発表。

## ■教科書

プリント利用

## ■参考文献

授業の中で適時紹介します。

## ■到達目標

社会人意識醸成し、ビジネス基礎力を身に付ける。

## ■試験方法

授業への参加と成果物、チェックテストの内容で合否を判断します。

## ■成績評価基準

提出物20%、出席点80%で評価します。

## ■受講生へのメッセージ

本校の学びは社会、仕事に直結しています。目指す業界、職種に就くことを強く意識し、未来を見据えて取り組んでください。合わせて、単なる就職対策としてではなく、社会人として最低限の基礎学力を身につけてください。